

上田蠶絲專門學校一覽

大正十一年

上田蠶絲專門學校一覽

目次

第一	學年曆	一頁
第二	沿革畧	一
第三	法令	一四
一	文部省直轄諸學校官制抄	一四
二	文部省直轄諸學校專任職員定員令抄	一七
三	高等官官等俸給令抄	一八
四	判任官俸給令抄	二一
五	奏任文官及判任文官ノ優遇ニ關スル件	二二
六	文部省直轄諸學校教官俸給ノ支給ニ關スル件	二三
七	官吏服務規律	二四

八	文部省直轄諸學校長特別任用規定	二七
九	文部省直轄諸學校長職務規程	二七
十	專門學校令抄	二八
十一	實業學校令抄	二九
十二	實業學校教員養成規程	三〇
十三	專門學校入學者檢定規程	三四
十四	文部省直轄學校中二箇以上ノ學校へ入學出願者入學方	三六
十五	文部省直轄學校外國人特別入學規程	三六
十六	學生生徒兒童身體檢查規程抄	三七
第四 上田蠶絲專門學校規則		
第一章	總則	四五
第二章	學科課程	四六
第三章	學年、學期及休業日	五三
第四章	入學、在學、退學及處罰	五四

第五章	修業及卒業	五九
第六章	入學試驗手數料授業料實習實驗費	六〇
第七章	研究生	六二
第八章	選科生	六三
第九章	寄宿舍	六四
第五	上田蠶絲專門學校諸規程	六九
一	校務分掌規程	六九
二	職員服務規程	七四
三	校醫服務規程	七六
四	宿直規程	七七
五	物品會計規程細則	七九
六	成績考查規程	八五
七	學生心得	八七
八	總代規程	九〇

九 學生制服規程	九〇
十 寄宿舍規程	九八
十一 寄宿舍細則	九九
十二 通學規程	一〇八
十三 授業料規程	一〇九
十四 傭人規程	一一〇
十五 非常手配規程	一一二
十六 參觀規程	一一四
第六 職員	一一五
第七 學生	一二二
一 學生氏名	一二二
二 學生地方別	一二三
三 學生出身學校別	一二三

目次終

目次

四	學生修業學校別	一四〇
五	學生年齡調	一四〇
六	入學志願者及入學者修業學校別	一四一
第八 卒業者		
一	卒業者氏名	一四五
二	卒業者年次別	一五九
三	卒業者本籍就職地方別	一六〇
四	卒業者職業別	一六三
附 錄		
一	上田蠶絲專門學校々友會規則	一六四
二	校友會役員	一六八

五

上田蠶絲專門學校一覽

第一學年 曆

四月一日	第一學期始	九月一日	第二學期始	一月一日	第三學期始
四月三日	神武天皇祭	秋分日	秋季皇靈祭	一月一日	新年拜賀式
四月十日	春季休業終	九月十日	夏季休業終	一月十日	冬期休業終
四月十七日	本校記念日	十月十七日	神嘗祭	二月十一日	紀元節
五月二十七日	海軍記念日	十月第三日曜日	本校運動會	三月十日	陸軍記念日
七月三十日	明治天皇祭	十月三十一日	天長節祝日	春分日	春季皇靈祭
八月一日	夏季休業始	十一月廿三日	新嘗祭	三月二十五日	春期休業始
八月三十一日	天長節	十二月廿五日	冬期休業始	三月三十一日	第三學期終
八月三十一日	第一學期終	十二月卅一日	第二學期終		

第二一沿革 略

明治四十三年

三月二十六日本校ノ設置ヲ公布セラル

三月二十六日本校職員定員ヲ校長一人教授四人助教授四人書記三人ト定メラ
ル

八月十三日 文部省視學官針塚長太郎本校校長ニ任セラル

八月二十五日本校ノ位置ヲ長野縣小縣郡上田町トシ明治四十四年四月ヨリ授
業ヲ開始スル旨告示セラル

八月二十五日本校ノ事務ハ當分ノ間文部省内ニ於テ之ヲ取扱フ旨告示セラル

十二月十三日本校規則制定ノ件許可セラル

十二月十四日本校規程ヲ公布セラル

十二月十四日甲種程度ノ實業學校卒業者但シ志望學科ト同種類若クハ類似ノ
學科ヲ修メタル者ニ限ルヲ本校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學
力ヲ有スル者ト指定セラル

明治四十四年

二月二十一日文部省内ニ於テ取扱ヒ來リタル本校ノ事務ハ全月二十四日ヨリ
長野縣小縣郡上田町ノ本校内ニ於テ取扱フ旨告示セララル

三月廿七日ヨリ四日間本校第一回入學試験ヲ東京上田ニ於テ施行ス

三月三十一日本校職員定員ヲ校長一人、教授六人、助教授四人、書記四人ニ改正セ
ラル

四月六日入學志願者四百一名ノ内養蠶科四十九名、製絲科四十五名、合計九十四
名ニ入學ヲ許可ス

四月十一日勅語膽本奉贍セララル

四月十七日本校始業式ヲ舉行ス

四月十八日入學宣誓式ヲ舉行ス文部省實業學務局長眞野文二臨席セララル

四月十九日授業ヲ開始ス

六月十二日 聖上 皇后兩陛下ノ御眞影並ニ教育ニ關スル 御親署ノ勅語ヲ

下賜セララル

六月二十三日本校々友會發會式ヲ舉行ス

十二月二十日本校物品會計規程細則並ニ帳簿用式制定ノ件許可セラル
明治四十五年

三月二十五日ヨリ四日間本校第二回入學試驗ヲ上田、東京及廣島ニ於テ施行ス
四月五日入學志願者二百七十八名ノ内養蠶科三十七名、製絲科三十七名、合計七
十四名ニ入學ヲ許可ス

四月十六日第二回入學宣誓式ヲ舉行ス

五月二十九日本校職員定員ヲ校長一人、教授十四人、助教授十人、書記五人ニ改正
セラル

七月三十日 明治天皇崩御ニ付御尊影奉拜式ヲ舉行ス

大正元年

九月十三日 明治天皇御大喪儀ニ付本校講堂ニ於テ遙拜式ヲ舉行ス

十一月十五日本校工事略ボ終了シ、文部大臣官房建築課出張所閉鎖セラル

十一月二十八日本校規則中學科課程休日其他改正ノ件許可セラル

大正二年

三月二十四日ヨリ四日間第三回入學試験ヲ上田東京及京都ニ於テ施行ス
四月一日入學志願者百六十六名ノ内養蠶科三十五名製絲科三十一名合計六十
六名ニ入學ヲ許可ス

四月十一日第三回入學宣誓式ヲ舉行ス

六月十三日本校職員定員中教授十四人ヲ十三人ニ改メラル

十月十五日開校式ヲ舉行ス針塚校長ノ式辭建築課長ノ報告文部大臣長野縣知
事直轄諸學校長等ノ祝詞アリ來賓ハ文部大臣代理松浦文部省専門學務局長
依田長野縣知事大島第八高等學校長外五百餘名ナリ

大正三年

二月六日第二製絲工場火災ニ罹リタリ

三月二十一日第一回卒業修業證書授與式ヲ舉行ス

養蠶科四十五名選科七名

製絲科四十名

三月二十四日ヨリ四日間第四回入學試験ヲ上田東京及京都ニ於テ施行ス

四月一日入學志願者百三十三名ノ内養蠶科三十三名製絲科三十三名合計六十

六名ニ入學ヲ許可ス

四月十三日第四回入學宣誓式ヲ舉行ス

五月二十四日 昭憲皇太后御大喪儀ニ付校長針塚長太郎供奉並葬場殿參列ヲ

命セララル

五月二十四日 昭憲皇太后御大喪儀ニ付本校講堂ニ於テ遙拜式ヲ舉行ス

六月二日參觀規程制定

七月三十日 明治天皇祭ニ付講堂ニ於テ遙拜式ヲ舉行ス

十月十九日第一回運動會ヲ舉行ス

十一月四日第二製絲工場改築セリ

大正四年

一月二十四日寄宿舎一棟及附屬建物新築セリ

二月六日學生制服規程中ニ改正アリ

三月五日學校規則中ニ改正(授業料ノ件)アリ

三月九日寄宿舎規程ヲ制定ス

全 寄宿舎細則ヲ改正ス

三月二十二日第二回卒業修業證書授與式ヲ舉行ス

養蠶科本科三十二名選科三名

製絲科本科三十一名選科二名

三月二十四日ヨリ四日間第五回入學試驗ヲ上田東京及京都ニ於テ施行ス

四月一日入學志願者百十二名ノ内養蠶科三十名製絲科二十九名合計五十九名

ニ入學ヲ許可ス

四月十三日第五回入學宣誓式ヲ舉行ス

四月二十五日山階宮芳麿王殿下中央幼年學校ノ職員生徒ト御來校御參觀遊ハ

サル

十月二十五日 聖上陛下ノ御眞影下賜セララル

十一月十日 御即位奉祝式ヲ舉行ス

十二月一日本校規則中ニ改正(休學ニ關スル件)アリ

大正五年

三月二十一日第三回卒業修業證書授與式ヲ舉行ス

養蠶科本科二十七名、選科六名

製絲科本科二十三名

三月二十四日ヨリ四日間第六回入學試驗ヲ上田、東京及京都ニ於テ施行ス

三月三十日入學志願者百三十九名ノ内養蠶科三十五名、製絲科二十五名、合計六

十名ニ入學ヲ許可セリ

四月十二日第六回入學宣誓式ヲ舉行ス

十月十五日第二回運動會ヲ舉行ス

十月二十一日 皇后陛下御眞影 皇太子殿下御影下賜セララル

十一月三日 立太子禮奉祝式ヲ舉行ス

十一月二十日生物學教室、製圖教室ノ二棟新築セリ

大正六年

三月二十一日第四回卒業修業證書授與式ヲ舉行ス

養蠶科本科二十一名、選科六名

製絲科本科三十二名

三月二十八日ヨリ四日間第七回入學試験ヲ上田、東京、仙臺、名古屋及熊本ニ於テ
施行ス

四月六日入學志願者三百二十一名ノ内養蠶科三十九名、製絲科三十六名、合計七
十五名ニ入學ヲ許可セリ

四月十四日第七回入學宣誓式ヲ舉行ス

大正七年

三月二十一日第五回卒業修業證書授與式ヲ舉行ス

養蠶科本科卒業廿六名、選科一名

製絲科本科卒業十六名、選科四名

三月二十三日ヨリ四日間第八回入學試験ヲ上田、東京、福島、名古屋及熊本ニ於テ
施行ス

四月一日入學志願者二百五十八名ノ内養蠶科三十二名、製絲科三十二名、合計六

十四名ニ入學ヲ許可セリ

四月十二日第八回入學宣誓式ヲ舉行ス

四月十七日選科生入學試驗ヲ施行シ養蠶科四名、製絲科二名ニ入學ヲ許可セリ

六月一日本校備人規程ヲ改正ス

七月二十日本校職員定員教授十三人ヲ十四人ニ助教授十人ヲ九人ニ改正セラ

ル

十月八日第三回運動會ヲ舉行ス

大正八年

三月十五日第六回卒業修業證書授與式ヲ舉行ス

養蠶科本科二十八名、選科三名

製絲科本科十九名、選科一名

三月十九日ヨリ四日間第九回入學試驗ヲ上田、東京、名古屋、熊本及仙臺ニ於テ施

行ス

四月一日ヨリ四日間絹絲紡績科入學試驗ヲ上田、東京ニ於テ施行ス

四月一日入學志願者百九十七名ノ内養蠶科三十二名製絲科二十五名合計五十七名ニ入學ヲ許可セリ

四月六日絹絲紡績科入學志願者二十八名ノ内十名ニ入學ヲ許可ス

四月十六日選科生入學試験ヲ施行シ養蠶科五名製絲科一名ニ入學ヲ許可ス

四月十九日第九回入學宣誓式ヲ舉行ス

五月一日本校規程中改正^二學科改正^一絹絲紡績科新設ノ件アリ

五月七日 皇太子殿下御成年式舉行

七月七日 皇太子裕仁殿下本校へ行啓遊ハサレ高等官ニ拜謁仰付ラル

十月五日第四回運動會ヲ舉行ス

十二月五日本校職員定員教授十四人ヲ十六人ニ書記五人ヲ六人ニ改正セラル

大正九年

三月十五日卒業修業證書授與式ヲ舉行ス

養蠶科本科二十六名選科三名

製絲科本科二十八名選科三名

三月十七日本校規程中改正(本校ノ卒業生他ノ本科選科ニ入學)アリ
志願ノ者無試験入學許可ノ件

三月二十七日ヨリ四日間第十回入學試験ヲ上田、東京、名古屋、下關及仙臺ニ於テ
施行ス

四月一日入學志願者三百五十一名ノ内養蠶科十八名、製絲科十九名、絹絲紡績科
十四名、合計五十一名ニ入學ヲ許可セリ

四月十三日第十回入學宣誓式ヲ舉行ス

六月二日本校規程中改正(保證人廢止ノ件)アリ

九月二十五日紡織實驗室ヲ増築セリ

十月二十七日開校十年記念祝賀式ヲ舉行ス、針塚校長ノ式辭、文部大臣、長野縣知
事、直轄學校長、長野縣選出ノ衆議院議員等ノ祝詞アリ、來賓ハ中橋文部大臣、赤
星長野縣知事、下山米澤高等工業學校長、茨木松本高等學校長、山邊佐藤ノ衆議
院議員外壹千餘名ナリ

十月三十日教育勅語煥發三十年祝賀式ヲ舉行ス

十月三十一日第五回大運動會ヲ舉行ス

大正十年

二月十七日紡績工場ノ増築及第二製圖室ヲ新築セリ

三月十五日第八回卒業修業證書授與式ヲ舉行ス

養蠶科十八名、選科七名

製絲科二十八名、選科四名

三月二十二日ヨリ四日間第十一回入學試験ヲ上田、東京、名古屋、下關及仙臺ニ於
ヲ施行ス

四月二日入學志願者百八名ノ内養蠶科十四名、製絲科二十二名、絹絲紡績科八名

合計四十四名ニ入學ヲ許可セリ

四月十二日第十一回入學宣誓式ヲ舉行ス

九月十四日本校規程中改正(學科課程表ノ件)アリ

十月十六日第六回運動會ヲ舉行ス

十二月十四日本校規程中改正(授業料ノ件)アリ

大正十一年

三月十五日第九回卒業修業證書授與式ヲ舉行ス

養蠶科三十名、選科三名

製絲科十八名、全一名

絹絲紡績科七名、全三名

三月十七日ヨリ四日間第十二回入學試験ヲ上田、東京、名古屋、廣島及山形ニ於テ

施行ス

四月一日入學志願者百十八名ノ内養蠶科二十三名、製絲科三十三名、絹絲紡績科

十五名、合計七十一名ニ入學ヲ許可セリ

四月十二日第十二回入學式ヲ舉行ス

第三法 令

一、文部省直轄諸學校官制抄(明治二十六年勅令第八十六號明治四十五年五月二十九日勅令第三百三十號ヲ以テ改正)

第一條 文部省直轄諸學校ハ左ノ如シ

東京高等師範學校

廣島高等師範學校

東京女子高等師範學校

奈良女子高等師範學校	盛岡高等農林學校	鹿兒島高等農林學校
鳥取高等農業學校	三重高等農林學校	上田蠶絲專門學校
東京高等蠶絲學校	京都高等蠶業學校	神戸高等商業學校
長崎高等商業學校	山口高等商業學校	小樽高等商業學校
名古屋高等商業學校	福島高等商業學校	大分高等商業學校
第一高等學校	第二高等學校	第三高等學校
第四高等學校	第五高等學校	第六高等學校
第七高等學校造士館	第八高等學校	新潟高等學校
松本高等學校	山口高等學校	松山高等學校
水戸高等學校	山形高等學校	佐賀高等學校
弘前高等學校	松江高等學校	東京高等學校
大阪高等學校	浦和高等學校	福島高等學校
千葉醫學專門學校	金澤醫學專門學校	長崎醫學專門學校
富山藥學專門學校	東京高等工業學校	大阪高等工業學校

京都高等工藝學校

名古屋高等工業學校

熊本高等工業學校

米澤高等工業學校

桐生高等工業學校

橫濱高等工業學校

廣島高等工業學校

金澤高等工業學校

仙臺高等工業學校

明治專門學校

東京高等工藝學校

神戸高等工業學校

秋田鑛山專門學校

神戸高等商船學校

東京外國語學校

大阪外國語學校

東京美術學校

東京音樂學校

東京盲學校

東京聾啞學校

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

教授

生徒監

助教

書記

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ

監督ス

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

第九條 生徒監ハ奏任官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

生徒監ハ校長ノ指揮ヲ承ケ專ラ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第十七條 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於

テハ兼任教官ヲ置キ若ハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講

師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアル

ヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

二、文部省直轄諸學校專任職員定員

令抄

明治三十五年勅令第百九十九號
明治四十五年五月廿九日勅令第百三十號
大正二年六月十三日勅令第百八十三號

文部省直轄諸學校專任職員ノ定員左ノ如シ

法 令 文部省直轄諸學校專任職員定員

上田蠶絲專門學校		校	長	教	授	助	教	授	書	記
一	人	十六	人	九	人	六	人			

三、高等官官等俸給令抄 (明治四十三年三月二十
六日勅令第百三十四號)

第一條 親任式ヲ以テ叙任スル官ヲ除クノ外高等官ヲ分テ九等トス親任式ヲ以

テ叙任スル官及一等官二等官ヲ勅任官トシ三等官乃至九等官ヲ奏任官トス

第四條 初メテ高等文官ニ任セラル、者ノ官等ハ六等以下トス

高等文官ニシテ退官シタル者再ヒ高等文官ニ任セラル、場合ニ於テハ其ノ

官等ハ前官ノ官等以下トス但シ前官官等在職年數二年ヲ超エタル者ハ前官

ノ官等ニ一等ヲ進ムルコトヲ得

前官ノ官等七等以下ナルトキハ前項ノ規程ニ拘ラス陞シテ六等官ニ至ルコ

トヲ得

第五條 高等文官ノ官等ハ別ニ進級ノ例ヲ定メタルモノ及七等以下ノモノヲ除

キ在職二年ヲ超ユルニ非ザレハ陞叙スルコトヲ得ス

第九條 勅任文官親任式ヲ以テ敍任スル文官ヲ除クニシテ五年以上其ノ官ノ最高俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ七百圓以内ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

第十條 文部省直轄諸學校教授ニシテ五年以上高等官三等ニアリ功績アル者ハ三十八人ヲ限り高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得但シ各校二人ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 奏任文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第二表各號ノ一ニ依ル

第十九條 別表第二表第一號ニ依ル諸官左ノ如シ抄

文部省直轄諸學校教授

第二十三條 高等文官死亡シタルトキハ在職最終年俸三分ノ一ノ額ニ相當スル死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス

第二十四條 年俸ハ十二分シテ毎月之ヲ支給ス

第二十五條 俸給ハ新任増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス

休職又ハ待命ヲ命セラレ年俸金額ヲ給セサル場合ハ減俸ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第二十七條 廢官退官退職及死亡ノトキハ年俸ヲ月割計算トシ當月分ノ全額ヲ給ス

第二十八條 休職廢官退官ノ者事務引繼殘務調理ノ爲特ニ命ヲ受ケ事務ニ従事スル場合ニ於テハ其ノ間仍從前ノ年俸ヲ給ス

第二十九條 病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ超ユル者及私事ノ故障ニ依リ執務セザルコト三十日ヲ超ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又服忌ヲ受クル者及特旨ニ由リ賜暇休養スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二表 第一號

奏任官年俸表 (文部省直轄學校教授)

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級
四,500	四,100	三,700	三,300	三,100	二,700	二,400	二,000	1,700	1,400	1,200	1,000	1,100

第五表

勅任官タル 文部省直轄學校長	一級	五、二〇〇
	二級	四、八〇〇
奏任官タル文部省直轄學校長 (東京官學校長東京醫學學校長ヲ除ク)	三級	四、五〇〇
	四級	三、八〇〇
	五級	三、四〇〇
		三、一〇〇

四、判任官俸給令抄

(明治四十三年三月二十
六日勅令第百六十五號)

第一條 判任官ノ月俸ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表ニ依ル

第三條 判任文官ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ増給スルコトヲ得ス但シ六級以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 判任文官ニシテ一級俸ヲ受ケ五年ヲ超エ事務熟練優等ナル者ハ特ニ二百圓迄ヲ給スルコトヲ得

第五條 判任文官ノ俸給ハ月俸七十五圓未滿ノ者ニ限り級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得但シ各所定ノ最低俸給額ヲ下ルコトヲ得ス

第十三條 判任官死亡シタルトキハ在職最終月俸三月分ノ額ニ相當スル死亡賜

金ヲ其ノ遺族ニ給ス

第十四條 月俸ハ毎月下旬之ヲ支給ス

前項ノ外俸給ノ支給ニ關シテハ高等官官等俸給令ニ依ル

(別表)

月額	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級
一六〇 ^四	一三五	一五〇	一〇〇	八五	七五	六五	五五	五〇	四五	四〇	四〇

五、奏任文官及判任文官ノ優遇ニ

關スル件 (大正十年五月三十一日勅令第二百二十三號)

第一條 高等官官等俸給令別表第二表第一號第三表及第五表ニ依ル奏任文官ニシテ引續キ五年以上高等官三等ニ在職シ功績顯著ナル者ハ特ニ之ヲ勅任官ノ待遇トナスコトヲ得但シ帝國大學教授、官立大學教授、行政裁判所評定官及

高等官四等ヲ最高官等トスル奏任文官ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條 判任文官ニシテ引續キ五年以上一級俸ヲ受ケテ在職シ事務熟練優等ナル者ハ特ニ之ヲ奏任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ノ待遇相當官等ハ高等官六等以下トス

第一項ノ規定ニ依リ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ハ之ヲ主事ト稱ス

六、文部省直轄諸學校教官俸給ノ支給

ニ關スル件 (明治四十三年三月二十
六日勅令第五百五十四號)

第一條 文部省直轄諸學校教官ノ俸給ハ其ノ授業ノ時間又ハ學科ノ難易輕重ニ依リ最低額以下ヲ給スルコトヲ得

第二條 文部省直轄諸學校教官ニシテ一校又ハ數校ノ教官ヲ兼任スル者ニハ本官及兼官ニ於ケル授業ノ時間又ハ學科難易輕重ニ依リ其ノ俸給額ヲ分割シテ各學校ヨリ支給スルコトヲ得

第三條 文部省直轄諸學校ノ囑託講師ニハ教官俸給額ノ中ヨリ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

七、官吏服務規律

(明治二十年七月三十日勅令第三十九號)

第一條 凡ソ官吏ハ 天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律

命令ニ從ヒ各其ノ職務ヲ盡スベシ

第二條 官吏ハ其ノ職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其ノ命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得

第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス

官吏職務ノ内外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹慎懇切ナルコトヲ努ムヘシ

第四條 官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其ノ職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限り供述スルコトヲ得

第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文章ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス
第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ルハコトヲ得ス

第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス

第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章、榮賜、俸給並贈賜ヲ受クルニハ 天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條 左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其ノ饗燕ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 官廳ノ工事ヲ受負フ者
- 一 官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者

一官廳ノ補助金ヲ受クル起業者

一官廳ノ用品調達スル者

一官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 官吏並ニ其ノ家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 浪費シテ産ヲ破リ其ノ分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ

受クルコトヲ得ス

第十六條 凡ソ局長所長其ノ他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其ノ過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニアラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其ノ情ヲ知リ隱蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レヌ

第十七條 本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

八、文部省直轄諸學校長特別任用

規程

(大正二年六月十三日
勅令第二百三十七號)

文部省直轄諸學校長ハ勅任教官ノ職ニ在リタル者又ハ三年以上奏任教官ノ職ニ在リタル者ノ中ヨリ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

九、文部省直轄諸學校長職務規程

(明治三十三年六月十
八日文部大臣訓令)

第一條 校長ハ判任官ノ進退ヲ具狀シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣ニ稟申スルコトヲ得

第二條 校長事故アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ經テ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第三條 左ノ事項ハ校長之ヲ專行スヘシ

但シ第六號及第八號ニ關シテハ處分後文部大臣ニ報告スヘシ

第一、教官ノ學科擔任及事務員ノ分課ヲ定ムルコト

第二、規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設クルコト

第三、俸給月額八十五圓以下ノ雇員ノ進退ニ關スルコト

第四、教官以下内國各地出張ニ關スルコト

第五、教官以下ノ除服出仕請暇ニ關スルコト

第六、講師ノ解囑及其ノ報酬減額ニ關スルコト

第七、經費中ノ目ヲ流用スルコト

第八、三日以内ノ臨時休業ヲ爲スコト

第四條 前條ニ掲ゲタル事項ノ外總テ文部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

十、專門學校令抄

(明治三十六年三月廿七日勅令第六十一號)

第一條 高等ノ學術技藝ヲ教授スル學校ハ專門學校トス

專門學校ハ特別ノ規程アル場合ヲ除クノ外本令ノ規程ニ依ルヘシ

第五條 專門學校ノ入學資格ハ中學校若ハ修業年限四ヶ年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラレタル者以上ノ程度ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ美術音樂ニ關スル學術技藝ヲ教授スル專門學校ニ就テハ文部大臣ハ別ニ其ノ入學資格ヲ定ムルコトヲ得

第六條 專門學校ノ修業年限ハ三ヶ年以上トス

第七條 專門學校ニ於テハ豫科、研究科及別科ヲ置クコトヲ得

第八條 官立專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其程度並豫科、研究科及別科ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム

第十二條 第一條ニ該當セサル學校ハ專門學校ト稱スルコトヲ得ス

十一、實業學校令抄

(大正九年十二月十五日勅令第五百六十四號改正)

第一條 實業學校ハ實業ニ従事スル者ニ須要ナル智識技能ヲ授クルヲ以テ目的

トシ兼テ徳性ノ涵養ニカムヘキモノトス

第二條 實業學校ノ種類ハ工業學校、農業學校、商業學校、商船學校、水産學校、其ノ他實業教育ヲ爲ス學校及實業補習學校トス

獸醫學校ハ農業學校ト看做ス

第二條ノ二 實業學校ニシテ高等ノ教育ヲ爲スモノヲ實業專門學校トス
實業專門學校ニ關シテハ專門學校令ノ定ムル所ニ依ル

十一、實業學校教員養成規程

(大正十年六月三日
文部省發實九二號)

第一條 東京帝國大學、農科附屬農業教員養成所、東京商科大學附屬商業教員養成所、東京高等工業學校附設工業教員養成所及大阪高等工業學校附設工業教員養成所ノ生徒ニハ授業料ヲ徴收セス

前項養成所ノ生徒ニハ一箇月貳拾五圓以内ノ學資ヲ補給スルコトアルヘシ
帝國大學、官立大學及文部省直轄諸學校ノ學生生徒ニシテ卒業ノ後實業學校ノ教職ニ從事セントスル者ニハ授業料ヲ免除スルコトヲ得

第二條 前條養成所ノ生徒及前條第三項ニ依リ授業料ヲ免除セラレタル者ハ卒業ノ日ヨリ左ノ期間文部大臣ノ指定ニヨリ實業學校ノ教職ニ從事スル義務ヲ有ス但シ必要ノ場合ニ於テハ文部大臣ハ他ノ教職ニ從事スルノ義務ヲ負ハシムルコトアルヘシ

一、養成所ノ生徒ハ其ノ在學期間ノ二分ノ一
二、養成所ノ生徒ニシテ學資ノ補給ヲ受ケタルモノハ其ノ補給ヲ受ケタル年限ニ第一號ノ期間ヲ加ヘタル期間

三、授業料ヲ免除セラレタル者ハ其ノ免除セラレタル期間ノ二分ノ一
第三條 前條ノ義務期間内ニ於テ學校ニ入學シ若ハ外國ニ留學セントスル者アルトキハ文部大臣ハ時宜ニ依リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者ノ當該學校ニ在學中若ハ外國留學中ノ期間ハ前條ノ義務期間ニ算入セス

第四條 第二條ノ義務期間内ニ於テ文部大臣ノ指定ヲ受ケサルカ爲任意就職シタル者ハ其旨直ニ文部大臣ニ届出ツヘシ

其就職ヲ罷メ又ハ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

前條ノ許可ヲ受ケタル者學校ヲ卒業又ハ退學シ若ハ歸朝シタルトキハ直ニ文部大臣ニ届出ツヘシ

第五條 第一條養成所ノ生徒及同條第三項ニ依リ授業料ヲ免除セラレタル者左

ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ授業費學資又ハ授業料ヲ償還セシム但シ文部大臣ハ事情ヲ酌量シテ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

一、退學ヲ命セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退學シタルトキ

二、實業學校教員タルノ志望ヲ變更シタルトキ

三、第二條ノ義務ヲ盡サス又ハ第三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ入學若ハ留學シタルトキ

前項授業費ノ額ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ各教員養成所ニ於テ之ヲ定ム

第六條 地方長官ニ於テ文部大臣ノ指定ニ依リ教職ニ従事スル者ニ其義務期間

内轉任、退職若ハ休職ヲ命セントスルトキハ事由ヲ具シ豫メ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ但シ陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタルカ爲

當然休職トナリタル者アルトキハ其旨直ニ文部大臣ニ報告スヘシ
休職期間滿了ノ爲退職者トナリタル者アルトキ若ハ休職期間中復職ヲ命ジ
タルトキ亦同シ

第七條 各養成所ニ募集スヘキ生徒ノ員數ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 大學及専門學校ノ學生生徒ニシテ卒業ノ後實業學校ノ敎職ニ從事セン
トスル者ニハ一箇月貳拾五圓以内ノ學資ヲ補給スルコトアルヘシ

前項ノ規定ニヨリ學資ノ補給ヲ受クル者將來敎員タルニ適セサルモノト認
メタルトキハ文部大臣ハ學資ノ補給ヲ止ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ既ニ支給シタル學資ヲ償還セシム但シ文部大臣ハ事情
ヲ酌量シテ其全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

第九條 前條ノ規程ニ依リ學資ノ補給ヲ受ケタル者ハ其補給ヲ受ケタル年限ノ
一倍半ニ相當スル期間文部大臣ノ指定ニ依リ實業學校ノ敎職ニ從事スル義
務ヲ有ス但シ必要ノ場合ニ於テハ文部大臣ハ他ノ敎職ニ從事スルノ義務ヲ
負ハシムルコトアルヘシ

第三條乃至第六條ノ規定ハ前條ノ規定ニヨリ學資ヲ補給スヘキ學生生徒ニ關シ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前各教員養成所ニ入學シタル者若ハ帝國大學及文部省直轄諸學校ノ學生生徒ニシテ學資ノ補給ヲ受ケタル者ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

十三、專門學校入學者檢定規程

(明治三十六年三月三十日
日文部省令第十四號)

第一條 專門學校ノ本科ニ入學セントスル者ニシテ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業セサル者ハ此ノ規程ニ依リ檢定ヲ受クヘキモノトス

第二條 檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス

一、年齡男子ハ滿十七年以上女子ハ滿十六年以上ナルコト

二、身體健全ナルコト

三、品行方正ナルコト

四、現ニ中學校若ハ高等女學校ニ在學セサルコト

第三條 檢定ヲ分テ試驗檢定無試驗檢定ノ二トシ試驗檢定ハ官立公立ノ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ニ於テ便宜之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ當該專門學校ニ於テ生徒入學ノ際之ヲ行フ

第四條 試驗檢定ノ學科目及其ノ程度ハ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ各學科目及其ノ卒業ノ程度トス但シ中學校若ハ高等女學校ニ於テ加除シ又ハ課セサルコトヲ得ル學科目ハ之ヲ省ク

第五條 官立公立ノ中學校若ハ高等女學校ニ於テハ試驗檢定ニ合格シタルモノニハ試驗檢定合格證書ヲ交付スヘシ

第六條 官立公立ノ中學校若ハ高等女學校ニ於テハ試驗檢定ノ問題及答案成績表ハ五ヶ年以上保存スヘシ

第七條 官立公立ノ中學校若ハ高等女學校ハ試驗檢定手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第八條 左ニ掲クル者ハ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

- 一、文部大臣ニ於テ専門學校ノ入學ニ關シ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者
- 二、明治三十五年文部省告示第八十二號ニ依リ高等學校入學ノ豫備試験ニ合格シタル者

十四、文部省直轄學校中二個以上ノ學校ヘ

入學出願者入學方

(明治三十六年文部省告示第九十六號)

同一人ニシテ文部省直轄諸學校中ノ二個以上ノ學校ニ入學ヲ出願シタル者ハ其ノ最前ニ入學許可セラレタル學校ニ入學スヘキモノトス但シ同時ニ二個以上ノ學校ニ入學ヲ許可セラレタル者ノ入學スヘキ學校ハ本人ノ選擇ニ任ス

十五、文部省直轄學校外國人特別入學

規程

(明治三十四年十一月十一日文部省令第十五號)

第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規程ニ依ラス所定ノ學

科ノ一科若ハ數科ノ教授ヲ受ケントスル者ハ外務省在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介アルモノニ限り特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 前條ニ依リ教授ヲ受ケントスル外國人ハ前條ノ紹介書ヲ添ヘ帝國大學總長若ハ學校長ニ願出ツヘシ

第三條 帝國大學總長若ハ學校長ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタル時ハ相當ノ學力アリト認メタルモノニ限り之ヲ許可スヘシ但シ學校ノ設備上差支アル場合ハ此ノ限ニアラス

第四條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニシテ學科修了ノ證明書ヲ受ケントスル者ニハ試験ノ上之ヲ附與スヘシ

第五條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニハ入學試験料、入學料及授業料ヲ徵收セサルコトヲ得

第六條 帝國大學總長及學校長ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

十六、學生生徒兒童身體檢查規程抄

(大正九年七月二十七日
文部省令第十六號改正)

第一條 學生生徒兒童身體検査ハ毎年四月ニ於テ之ヲ施行スヘシ但シ止ムヲ得

サル場合ハ五月ニ於テ之ヲ施行スルコトヲ得

監督官廳又ハ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ學校醫ニ於テ必要ト認メ
學校長ノ同意ヲ得タルトキハ身體検査ノ全部若ハ一部ヲ臨時施行スルコト
ヲ得

第二條 身體検査ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

學校醫ナキ場合若ハ學校醫カ身體検査ヲ行ヒ難キ事情アルトキハ他ノ醫師
ヲシテ行ハシムルコトヲ得

學校職員又ハ他ノ適當ナルモノヲシテ身體検査ノ一部ヲ助ケシムルコトヲ
得

第三條 身體検査ハ左ノ項目ニ就キ施行スヘシ

- 一、發育(身長、体重、胸圍、概評)
- 二、營養
- 三、脊柱
- 四、視力及屈折
- 狀態
- 五、色神
- 六、眼疾
- 七、聽力
- 八、耳疾
- 九、齒牙
- 十、其ノ他ノ疾病及異常
- 十一、監察ノ要否

前項目ノ外必要ト認メタル事項ハ特ニ検査ヲ行フコトヲ得

色神検査ハ在學中一回行ヒタルトキハ其ノ後之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 身體検査ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スヘシ

一、検査ノ表記ニハ度ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ單位トシ四捨五入法ヲ用ヒテ度ハ

分、衡ハ忽ニ止ムヘシ

二、身長ヲ測定スルニハ足袋、靴等ヲ脱セシメ兩踵ヲ密接シテ直立シ兩上肢

ヲ鉛直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ又女子ニシテ鬢アルモノハ小

髻ヲ鬢下ニ水平ニ挿入シテ測定スヘシ

三、体量ハ著衣ノ儘測定シタルトキハ其ノ著衣ノ重量ヲ全重量ヨリ除去ス

ヘシ

四、胸圍ハ起立ノ姿勢ニ於テ兩上肢ヲ自然ニ垂レシメ乳頭ノ水平線ニ沿ヒ

普通呼吸ノ終レル時ヲ測定スヘシ

乳房ノ下垂セル女子ニアリテハ乳線上第四肋間ノ水平線ニ於テ測定ス

ルモノトス

五、發育ノ概評ハ別ニ定ムル標準ニ據リ甲、乙、丙ノ三ニ分ツモノトス

六、營養ハ甲、乙、丙ニ分チ其ノ佳良ナルヲ甲トシ不良ナルヲ丙トシ其ノ中間ナルヲ乙トス

七、脊柱ハ正、左彎、右彎、前彎、後彎ヲ區別シ彎ニ就テハ凡テ其ノ凸側ニ依リテ前後左右ノ方向ヲ表示スルモノトス其ノ程度ハ之ヲ強弱ノ二種ニ區別シ自己ノ意志ニ依リ容易ニ矯正シ得ルモノヲ弱トシ然ラザルモノヲ強トス

八、視力ハ萬國式試視力表ニ就キ兩眼ヲ各別ニ検査シ裸眼視力ヲ記入スヘシ裸眼視力一、〇以上ナルヲ正視眼トス

屈折機ノ異常アルモノハ其ノ種別ヲ記入スヘシ

弱視失明等モ兩眼ニツキ各別ニ記入スヘシ

九、色神ハ其ノ異常アルモノニ就キ色盲及色弱ヲ區別スヘシ

十、聽力ハ其ノ障礙ノ有無ヲ検査スヘシ

十一、齒牙ハ齶齒ニ就キ検査スヘシ

十二、其ノ他ノ疾病及異常ハ検査ノ際發見シタルモノヲ記入スヘシ殊ニ結核性疾患、腺病、肪膜炎、心臟疾患及機能障礙、貧血、脚氣、傳染性皮膚病、腺樣增殖症及扁桃腺肥大「ヘルニヤ」、神經衰弱、精神障礙ニ注意スヘシ

十三、監察ノ要否ハ検査ノ結果身心ノ健康狀態不良ニシテ學校衛生上特ニ繼續的ニ監察ヲ要スト認ムル者ヲ「要」トシ記入スルモノトス

第五條 第一條第一項ノ身体検査ヲ施行シタルトキハ其ノ結果ヲ身体検査票ニ記入シ本人同一種類ノ學校ニ在學中連年之ヲ繼續スヘシ但シ程度ヲ異ニスル學科部類ヲ有スル學校ニ在リテハ其ノ部類毎ニ別票ヲ用フルモノトス

第一條第二項ノ臨時身体検査ノ際必要ト認ムル事項ヲ發見シタルトキハ之ヲ身体検査票ノ裏面ニ記入スルモノトス繼續的監察ノ場合亦同シ

他校ヨリ轉入シタルモノアルトキハ學校長ハ前ノ學校ヨリ其ノ身体検査票ノ交付ヲ受ケ使用スヘシ身体検査票ハ學校長ニ於テ保管スヘシ

第六條 身体検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ其ノ結果ヲ本人若ハ其ノ保護者ニ示スヘシ授業免除、就學猶豫、就學免除、休學、退學又ハ治療保護矯正等ヲ要ス

へキモノアルトキハ本人若ハ其ノ保護者ニ對シテ特ニ注意ヲ與ヘ其ノ他必要ナル處置ヲ取ルヘシ

第七條 第一條第一項ノ身体検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ身体検査統計表ヲ調製シ其ノ年六月限り文部省直轄學校長及公立大學長ニ在リテハ文部大臣ニ其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ニ報告スヘシ

第九條 特別ノ事情アル場合ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ本令ノ身体検査ヲ行ハサルコトヲ得

一寸五分 ○ 一寸五分 ○ 二寸 ○ 一寸五分 ○ 一寸五分

身 体 檢 査 票

學 校 名		身 体 檢 査 票		學 年		年 齡		氏 名		性 別		年 月 日		家 業							
發 育 概 評		胸 圍		體 重		身 長		檢 査 年 月 日		學 年		年 齡		氏 名		性 別		年 月 日		家 業	

(注意事項)

- 一、用紙ノ大サハ幅八寸長サ一尺二寸トシ綴込用紙ハ本圖ニ示セル如シ
- 二、横ノ區劃ハ全學年數ヨリ

(校名) 學生生徒兒童身體檢查統計表 (男女)

年 齡		年	年	年	年	年
年 身 長	總 長					
	平 均					
體 重	總 重					
	平 均					
胸 圍	總 長 均					
概 許	甲					
	乙					
	丙					
營 養	甲					
	乙					
	丙					
脊 柱	正 變					
視 力 及 屈 折 狀 態	正 視	兩 眼				
		一 眼				
	遠 視	兩 眼				
		一 眼				
	近 視	兩 眼				
一 眼						
亂 視 及 其 他	兩 眼					
色 神	異 常					
	檢 查 人 員					
眼 疾	ト ラ ホ ー ム					
	其 他					
聽 力	障 害					
	ア ル 者					
耳 齒	齶 齒					
	ア ル 者					
其 疾 病 異 常 其 他						
監 察 檢 査 備	ヲ 要 スル 者					
	人 員 考					

一、本表ハ男女別學科部類別ニ調製スヘシ

二、年齡ハ四月一日ノ計算ニ依リ滿六年一日以上滿七年迄ノ者ヲ七年トシ其ノ他之ニ準ス

三、身長、胸圍ニ係ル總長、體重ニ係ル總重ノ各欄ニハ孰レモ同一年齡ニ於ケル各檢査人員ノ身長、胸圍又ハ體重ノ各合計ヲ掲ゲ平均ノ各欄ニハ其檢査人員ヲ以テ總長又ハ總重ヲ除シタル商ヲ掲クヘシ

四、視力及屈折狀態ニ就テハ兩眼ノ欄ニハ兩眼共正視、遠視、近視若ハ亂視及其ノ他ノ者ノ人員

- 一、ヲ掲ケ一限ノ欄ニハ一限ノミ正視、遠視、近視若ハ亂視及其ノ他ノ者ノ人員ヲ掲クヘシ
- 二、色神ニ就テハ異常者ノ數及ヒ検査人員ヲ記スヘシ
- 三、其ノ他ノ疾病異常欄ニ不足ヲ生シタルトキハ附箋ヲ以テ之ヲ補フヘシ
- 四、前項ノ外本表ニ記入スヘキ項目ノ一部ノ検査ヲ缺キタル者ハ之ヲ表中ニ計入スヘカラス
- 五、外國人ニ係ルモノハ之ヲ計入スヘカラス
- 六、備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ關シ説明ヲ要スル事項其ノ他特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ
- 七、本表ノ成績ニ關シ學校醫ニ於テ學校衛生上意見アルトキハ之ヲ表末ニ附記スヘシ

第四 上田蠶絲專門學校規則

第一章 總 則

第一條 本校ハ實業學校令及專門學校令ニ依リ蠶絲業ニ從事スヘキ者ニ高等ノ學術技藝ヲ教授スルヲ以テ目的トス

第二條 本校本科ノ學科ヲ分チテ養蠶科、製絲科、絹絲紡績科トス

第三條 各學科ノ修業年限ハ各三ケ年トス

第四條 本校ニハ研究生及選科生ヲ置クコトアルヘシ

研究生及選科生ニ關シテハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本科生ニ關スル

規定ヲ準用ス

第二章 學科課程

第五條 各學科ノ學科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ必要ノ場合ニ於テハ教授時間定時間外又ハ休業期間ニ於テ臨時講演ヲ聽カシメ又ハ實習ヲ課スルコトアルヘシ

養蠶科

講義ノ部 (每週教授時數)

學科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	學期第一	學期第二	學期第三	學期第一	學期第二	學期第三	學期第一	學期第二	學期第三
修身	一	一	一	一	一	一	一	一	一
英語	三	三	三	三	三	三	三	三	三
英語	三	三	三	三	三	三	三	三	三
獨逸	二	二	二	二	二	二	二	二	二
動物	二	二	二	二	二	二	二	二	二
植物	三	三	三	三	三	三	三	三	三
微生物	二	二	二	二	二	二	二	二	二
遺傳	二	二	二	二	二	二	二	二	二
數學	二	四	四	二	二	二	二	二	二

實習實驗ノ部 (每週教授時數)

計	體操	織維	製絲	殺繭	繅繭	農蠶業經營	昆蟲學	桑樹論	蠶體病生理學	蠶體解剖及蠶體生理學	養蠶學	蠶種學	蠶業況論	法制及經濟學	農學	土壤學及肥料學	生理學	化學	氣象學	物理學	測量	
三六	二			三				二			五		一	二							四	
三五	二			一				二			三		一	二							二	四
三三	二							二			二		一	二							二	四
一九	二							二	一					二	二						二	
二七	二							二	一	二				三	二	二					二	二
二七	二							二	一	二				三	二	二					二	二
二三	二	二				一	三		四	一								三				
二五	二	二	二			一	三														二	二
二七	二	二	三			一	三														二	二

學科目	學年		第一學年		第二學年		第三學年	
	學期	學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期
動物實驗								
植物實驗				三		三		
物理實驗								
化學實驗					六	三		
蠶種檢査								
蠶兒飼育								
蠶體解剖		無定期						
微生物及蠶體病理實驗								
圃場實習		六			六	三		
繭檢査								
殺蛹乾繭査								
製絲								
生絲檢査								
肩物整理								
織物實驗								
計	六	六	九	一五	一五	一二	九	一五

備考 毎週教授時數ハ修身ヲ除クノ外授業ノ都合ニ依リ之ヲ増減スルコトアルベシ
蠶兒飼育(無定期)及殺蛹乾繭(無定期)ノ回数ハ一學期間ノ回数トス

製絲科

講義ノ部 (每週教授時數)

學科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	學期	學期	學期	學期	學期	學期	學期	學期	學期
修身	一	一	一	一	一	一	一	一	一
英語	三	三	三	三	三	三	三	三	三
佛蘭西語	二	二	二	二	二	二	二	二	二
數學	六	五	三						
物理	四	四	四						
應用機械學	二	三	三						
熱機學									
水力機械學及電氣學									
化學	二	二	二						
工業化									
法制及經濟學									
商業通論									
製絲原料論									
乾絲燥論									
製絲學									
生絲整理及生絲檢查論									
屑物整理論									
製絲業經營學									
生絲貿易論									

上田蠶絲專門學校規則

工業簿記	工場管理論	工場衛生論	工場建築論	織維學	絹絲紡績論	燃絲及機械論	養蠶蠶論	體操	計
									三三三
							二四		三三三
							二四		三〇〇
							二四		二八
							二		二八
							二		二七
							二		二三三
							二		二三三
							二		二三三

實習實驗ノ部 (每週教授時數)

學科目	學年	學期	第一學年	第二學年	第三學年	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
物理實驗	第一學年	第一學期												
化學實驗	第一學年	第一學期												
熱機學實習	第一學年	第一學期												
機械設計及製圖	第一學年	第一學期												
繭檢査	第一學年	第一學期												
繭殺蛹乾繭貯繭	第一學年	第一學期												
製絲	第一學年	第一學期												
生絲整理及生絲檢査	第一學年	第一學期												
工場管理	第一學年	第一學期												
工場管理	第二學年	第一學期												
工場管理	第二學年	第二學期												
工場管理	第二學年	第三學期												
工場管理	第三學年	第一學期												
工場管理	第三學年	第二學期												
工場管理	第三學年	第三學期												

屑物整理	二	二																		
顯微鏡使用法																				
纖維實驗																				
紡績																				
燃絲及機械織																				
蠶兒飼育(夏蠶又ハ秋蠶)																				
計	八	八	一二	一〇	一三	一三	一八	一八	一五											

備考 每週教授時數ハ修身ヲ除クノ外授業ノ都合ニ依リ之ヲ増減スルコトアルヘシ

購繭殺蛹乾繭貯繭(無定時)蠶兒飼育(無定時)ノ回数ハ一學期間ノ回数トス

絹絲紡績科

講義ノ部 (每週教授時數)

學科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
修身	一	一	一	一	一	一	一	一	一
英語	三	三	三	一	一	一	三	三	三
佛蘭西語	二	二	二						
數學	六	五	三						
物理學	四	四	三						
應用機械學	二	三	三						
熱力學									
水力機械學及電氣學									

體	養	製	工	工	工	工	色	精	織	燃	莫	毛	絹	麻	綿	織	法	化
計	蠶	絲	場	場	業	業	業	練	物	絲	大	絲	絲	絲	絲	維	制	及
操	論	論	論	論	記	學	論	白	上	機	小	績	績	績	績	學	學	學
三三																		
三三	二	二	三	一						二								
三三	二	二	三	一						二								
三三	二	二	三	一														
三〇	二	二	三	一														
二四																		
二四	二									二								
二七	二									二								
二八	二									二								
二六	二									二								
二六	二									二								
二七	二									二								
二六	二									二								

實習實驗ノ部 (每週教授時數)

學科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	學期第一	學期第二	學期第三	學期第一	學期第二	學期第三	學期第一	學期第二	學期第三
物理實驗									
熱機關學實習									
機械設計及製圖		三							
化學實驗									
顯微鏡使用法									
纖維實驗									
紡絲及機械績									
撚絲及機械績									
分解及意匠									
圖案									
製色									
蠶兒飼育(夏蠶又ハ秋蠶)	三	三							
計	九	九	一二三	一五	一五	一五	一五	一五	一二三

備考

每週教授時數ハ修身ヲ除クノ外授業ノ都合ニ依リ之ヲ増減スルコトアルヘシ

蠶兒飼育(無定時)ノ回数ハ一學期間ノ回数トス

第三學年ニ於テハ七月中紡績ノ校外實習ヲ課ス

第一學期ノ回数ハ之ヲ増加スルコトアルヘシ

第三章 學年、學期及休業日

上田蠶絲專門學校規則

第六條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第七條 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期ハ四月一日ニ始マリ八月三十一日ニ終ル

第二學期ハ九月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル

第三學期ハ一月一日ニ始マリ三月三十一日ニ終ル

第八條 休業日ハ左ノ如シ

一、 祝日大祭日

一、 日曜日

一、 本校記念日 四月十七日

一、 春季休業 自三月二十五日
至四月十日

一、 夏季休業 自八月十一日
至九月十日

但實習ノ都合ニ依リ變更スルコアルヘシ

一、 冬季休業 自十二月二十五日
至翌年一月十日

第四章 入學、在學、退學及處罰

第九條 學生ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始メ一箇月以內トス

第十條 各學科第一學年ニ入學ヲ許スヘキ者ハ品行方正、志望鞏固、年齡十七年以
上ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ且ツ入學試驗及ビ體格檢査ニ合格シ
タル者タルヘシ

一、中學校ヲ卒業シタル者

二、專門學校入學者檢定規程ニ據ル試驗檢定ニ合格シタル者

三、專門學校入學者檢定規程第八條第一號ノ指定ヲ受ケタル者

四、尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年、高等小學校卒
業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年若クハ之ト同等以上

前項第一號第三號又ハ第四號ニ該當スル學校ニ在學シ本校入學試驗期日前
ニ卒業スヘキ見込アル者ハ當該學校長ノ證明ヲ得テ入學試驗ヲ受クルコト
ヲ得

第十一條 入學試驗ノ學科目ハ英語、數學、物理、化學及養蠶科ニアリテハ動物、植物
製絲科及絹絲紡績科ニアリテハ幾何、書トシ中學校卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行

ヒ別ニ體格検査ヲ行フ

第十二條 入學ヲ出願スル者ハ第二條ニ掲ゲタル學科中ニ就キ其ノ志望學科ヲ

定メ左ノ書類ニ入學試験手数料及寫眞(入學志願前六箇月以内ニ撮影シタル

脱帽半身手札形)ヲ添へ學校長ニ差出スヘシ

一、入學願書(第一號書式)

二、履歷書(第二號書式)

三、戶籍抄本

四、第十條第一號第三號又ハ第四號ニ該當スル學校長ノ卒業證明書(第三號

書式)若ハ第二號合格證明書(第四號書式)

第十三條 本校ヲ卒業シタル者ニシテ他ノ學科ノ本科又ハ選科ニ入學ヲ出願ス

ルトキハ無試験ニテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十四條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ其ノ許可ノ日ヨリ二十日以内ニ誓書(第五號

書式)ヲ本校ニ差出スヘシ

第十五條 本校ヲ退學シタル者再入學ヲ願出テタルトキハ缺員アル場合ニ限り

詮議ノ上試験ヲ行ヒ原級以下ニ入學ヲ許可スルコトアルヘシ但シ場合ニ依
リ試験ヲ省略ス試験ノ全部ヲ省略シタルトキハ入學試験手数料ヲ徴收セス

第十六條 學生ハ本校所定ノ制服制帽ヲ着用スヘシ

第十七條 學生疾病其ノ他己ムヲ得サル事由ニ依リ缺席スル者ハ其ノ事由ヲ詳
記シ三日以内ニ届出ツヘシ但シ病氣ノ爲メ缺席七日以上ニ亘ル者ハ醫師ノ
診断書ヲ添付スルヲ要ス

第十八條 學生疾病ニ依リ引續キ三箇月以上修業シ能ハスト思料スルトキハ醫
師ノ断断書ヲ添へ願書ヲ學校長ニ差出シ許可ヲ得テ一箇年以内休學スルコ
トヲ得但シ休學中其ノ事由消滅シタルトキハ許可ヲ得テ一科目又ハ數科目
ノ授業ニ出席シ又ハ次學年ニ於テ休學ノ解除ヲ出願スルコトヲ得
前項ニ依リ休學ヲ許可セラレタル者ハ休學期間滿了ノトキ更ニ原級ノ課程
ヲ修ムヘシ

第十九條 學生改姓、改名、改印、轉籍等ヲ爲シタルトキハ其ノ旨直ニ届出ツヘシ但
シ改姓、改名、轉籍ニハ戶籍抄本ヲ添フルヲ要ス

第二十條 學生在學中兵役ニ服スル者ハ學校長ノ許可ヲ得テ其ノ間休學スルコ

トヲ得

前項ニ依リ休學ヲ許可セラレタル者服役ヲ終リタルトキハ直ニ原級ニ復歸スヘシ

第二十一條 學生ハ學校長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ他ノ學校ニ入り又ハ他

學校若ハ官署ニ於ケル各種ノ試験ニ應スルコトヲ得ス

前項ノ許可ヲ受クルニハ其ノ事由ヲ具シ學校長ニ願出ツヘシ

第二十二條 學生已ムヲ得サル事由ニ依リ退學セントスルトキハ其ノ事由ヲ具

シ父兄若クハ後見人連署ノ上學校長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ疾病ニ因

リ退學セントスル場合ニ於テハ願書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スルヲ要ス

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ退學ヲ命ス

一、 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二、 學業劣等若ハ身體虛弱等ニ依リ成業ノ見込ナシト認メタル者

三、 引續キ一箇年以上缺席シタル者但シ休學ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限

リニアラス

四、正當ノ事由ナクシテ引續キ三十日以上缺席シタル者

五、正當ノ事由ナクシテ屢々缺席シ出席常ナラサル者

六、授業料滞納二週日ニ亘ル者

第二十四條 學生ニシテ校規命令又ハ訓育ノ趣旨ニ違背シ其ノ本分ヲ失ヘリト

認ムヘキ行爲アル者ハ學校長之ヲ處罰ス

處罰ハ分チテ譴責停學放校トス

第五章 修業及卒業

第二十五條 各學年ノ課程修了ハ該學年中平素ノ勤惰及學業ノ成績等ヲ考查シ

テ之ヲ定ム

第二十六條 前條ノ考查ニ合格セサル者ニハ次學年ノ始メヨリ原級ノ課程ヲ再

修セシムルモノトス

第二十七條 已ムヲ得サル事由ニ依リ試験ニ缺席シタル者追試験ヲ受ケンコト

ヲ願出ツルトキハ詮議ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ次
學期ノ始メ二週日以内ニ之ヲ行フ

第二十八條 第三學年ノ課程ヲ修了シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第二十九條 第三學年ノ成績考查ニ合格セサル者ニハ本人ノ希望ニ依リ詮議ノ

上修業證書ヲ授與スルコトアルヘシ

第三十條 成績考查ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第六章 入學試驗手数料、授業料、實習實驗費

第三十一條 入學試驗手数料ハ金參圓トス

第三十二條 授業料ハ一學年本科生及研究生ハ金五拾圓、選科生ハ金四拾圓トス

外國人ニシテ特別ニ入學ヲ許可セラレタル者ノ授業料ハ一學年本科生及研
究生ハ金七拾圓、選科生ハ金五拾圓トス

第三十三條 授業料ハ一箇年ヲ左ノ三期ニ分チ每期ノ始メニ於テ之ヲ徵收ス

本科及研究生

同選科生

第一期 自八月 至 自四月 金拾七圓 金拾四圓

第二期 自九月 至 自十二月 金拾七圓 金拾參圓

第三期 自一月 至 自三月 金拾六圓 金拾參圓

第三十四條 研究生及選科生ニハ實習實驗ニ要スル費用ノ全部若ハ一部ヲ徴收スルコトアルヘシ

第三十五條 入學試驗手數料、授業料及實習實驗費ハ一旦納付ノ後ハ何等ノ事由アリト雖モ之ヲ返付セス

第三十六條 實業學校教員養成規程ニ依ル學資補給希望者ニ對シテハ其ノ補給決定ニ至ル迄授業料徴收ヲ猶豫シ補給生トナリタルトキハ之ヲ徴收セス

第三十七條 停學ヲ命セラレタル者又ハ休學ヲ許可セラレタル者ノ其ノ期間内授業料ヲ徴收セス但シ授業料徴收期日以前ニ停學又ハ休學シタルトキハ其ノ期ノ授業料ハ本科及研究生ハ金五圓選科生ハ金四圓トシテ指定ノ日ニ於テ之ヲ納付スヘシ

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ其ノ期ニ於ケル授業料ハ其ノ月ヨリ

一、箇月本科及研究生ハ金五圓選科生ハ金四圓ノ割ヲ以テ指定期日內ニ納付スヘシ但シ納付金ノ總額ハ當該期ノ納定額以內トス

一、停學ヲ解除セラレ就學シタル者

二、休學ノ事故止ミ就學シタル者

三、學期ノ半途ニ於テ入學ヲ許可セラレタル者

第三十九條 授業料ハ定日ニ納付スヘシ但シ定日以後ニ入學ヲ許可セラレタル者ハ入學許可ノ日ヨリ五日以內ニ之ヲ納付スヘシ

第四十條 授業料ヲ定日ニ納付セサルトキハ本人ニ之ヲ催告ン尙納付セサルトキハ父兄若クハ後見人ニ之ヲ催告ス

前項ノ催告ヲ受ケ尙納付セサルトキハ第二十三條ニ依リ處分ス

第七章 研究生

第四十一條 本校卒業者ニシテ既修ノ學科日ニ就キ更ニ研究セント欲スル者アルトキハ詮議ノ上研究生トシテ二箇年以內在學ヲ許可スルコトアルヘシ

第四十二條 研究生タラント欲スル者ハ其ノ研究セント欲スル事項及在學ノ期間ヲ具シタル願書ヲ學校長ニ差出スヘシ

第四十三條 研究生ハ學校内ニ於テ研究ニ従事スル者トス但シ必要ノ場合ニ於テハ或ル期間ヲ限り指導教官指揮ノ下ニ學校外ニ於テ研究スルコトヲ許可スルコトアルヘシ

第四十四條 研究生ハ其ノ研究事項ヲ結了シタルトキハ研究報告書ヲ學校長ニ差出スヘシ

第四十五條 學校長ハ研究報告書ヲ考查シ其ノ成績佳良ナリト認めタルトキハ研究證明書ヲ授與ス

第八章 選 科 生

第四十六條 本校所定ノ各學科ノ中一學科目若ハ數學科目ヲ專修センコトヲ願出ツル者アルトキハ詮議ノ上選科生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第四十七條 選科生トシテ入學ヲ許可スル者ハ左ノ各號ニ該當シ且本校ニ於テ

適當ト認ムル者ニ限ル

一、品行方正身體強健ナル者

二、年齡滿十七年以上ノ者

三、三箇年以上引續キ志望學科目ニ關スル業務ニ從事セル者又ハ實業學校ノ卒業者

第四十八條 選科生ノ入學時期ハ每學年ノ始メ一箇月以内トス但シ特別ノ場合

ニハ學年ノ半途ニ於テ入學ヲ許可スルコアルヘシ

第四十九條 選科生ニシテ在學中成績適當ナリト認メタル者ニハ修業證書ヲ授與ス

第九章 寄宿舍

第五十條 寄宿舍ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

第一號書式 (用紙美濃)

入學願書

志望學科 何科、第二志望何科(製絲科又ハ絹絲紡績科志願者ニ限ル)

受験希望ノ場所 東京、上田又ハ名古屋等

私儀貴校何科へ入學志願ニ付御許可相成度別紙履歷書卒業證明書若ハ專門學校入學者試験檢定合格證明書戶籍抄本、入學試験手數料及寫真相添此段相願候也

現住所

本籍地

族稱戶主(若ハ戶主トノ續柄)

年月日

入學志願者 何 某 印

年月日生

上田蠶絲專門學校長針塚長太郎殿

備考 本人氏名ニハ片假名ヲ附スヘシ

第二號書式(用紙美濃)

履 歷 書

現住所

本籍地

族稱戶主 (若ハ戶主トノ續柄)

何

某

年月日生

一、學業

何年何月迄何地官公私立何學校ニ於テ若ハ何某ニ就キ何學修業何年
何月何地官公私立何學校ニ於テ何々修業證書若ハ卒業證書又ハ品行
證明書(別紙寫ノ通)ヲ受ク其ノ他重要ノ事項

一、職業

何年何月何官職拜命若ハ何業ニ從事ス

何年何月退官廢業若ハ現今何官在職何從事等

一、賞罰

何年何月何所ニ於テ何々ノ賞罰ヲ受ク等

一、家業

何業

右之通り相違無之候也

年月日

何某印

第三號書式 (用紙美濃)

卒業證明書

族稱

何某

年月日生

右ハ年月日本校何學年ニ入學年月日全科ヲ卒業シタル者若ハ卒業スヘキ見込ノ者ナルコトヲ證明ス

年月日 何地官公立何學校長 何某印

第四號書式 (用紙美濃)

證明書

上田蠶絲專門學校一覽

族 稱

何

某

年月日生

右ハ專門學校入學者檢定規程ニ據リ年月日本校ニ於テ施行シタル試驗檢定
ニ合格シタル者ナルコトヲ證明ス

年 月 日

何地官公私立何學校長

何

某

印

第五號書式 (用紙美濃)

三錢
紙收
印入

誓 書

私儀今般貴校へ入學許可相成候ニ付テハ校規命令及訓育ノ御趣旨ヲ遵守シ
專心學業ヲ勉勵可致候仍テ誓書如此候也

現 住 所

本 籍 地

族稱戶主 (若ハ戶主トノ續柄)

年 月 日

何 某 印

年 月 日 生

上田蠶絲專門學校校長針塚長太郎殿

第五 上田蠶絲專門學校諸規程

一、校務分掌規程

第一章 總 則

第一條 校務ハ總ヘテ校長ノ指揮決裁ヲ經ルニ非サレハ之ヲ施行スルコトヲ得

ス但シ事ノ簡易ニシテ先例アルモノハ主管者ニ於テ之ヲ專行スルコトヲ得

第二條 分掌セル校務ノ相關聯スルモノハ總ヘテ主管者ノ合議ヲ經ヘシ

第三條 校務ヲ分チテ教育及事務ノ二トナス

第二條 教 育

第四條 教育ヲ分チテ教授及訓育ノ二トナス

第五條 教授ハ各學科目ノ教官之ヲ掌ル

第六條 訓育ハ生徒監之ヲ掌ル

第三章 事務

第七條 事務ハ庶務課、教務課、學生課、圖書課及會計課ノ五課ヲシテ之ヲ分掌セシム

第八條 庶務課ハ左ノ事務ヲ分擔ス

- 一、御眞影及勅語謄本ニ關スル事項
- 二、校内諸儀式ニ關スル事項
- 三、學校長ノ官印及學校印ノ保管ニ關スル事項
- 四、官吏及雇員等ノ進退賞罰及身分ニ關スル事項
- 五、叙位、叙勳ニ關スル事項
- 六、規則ノ制定公布及命令ノ傳達ニ關スル事項
- 七、公文書類ノ接受、發送、審議、立案及其ノ整理保管ニ關スル事項
- 八、統計報告ニ關スル事項
- 九、名簿、履歷書、出勤簿ニ關スル事項

- 十、宿直ニ關スル事項
 - 十一、會議ニ關スル事項
 - 十二、校舍校地ノ警備取締ニ關スル事項
 - 十三、本校内外ノ掃除及除雪等ニ關スル事項
 - 十四、傭人ノ進退、賞罰、取締ニ關スル事項
 - 十五、門鑑ニ關スル事項
 - 十六、他課ノ主管ニ屬セサル一切ノ事項
- 第九條 教務課ハ左ノ事務ヲ分擔ス
- 一、教室、教具、教材ノ整理保管ニ關スル事項
 - 二、標本室ニ關スル事項
 - 三、教授會ニ關スル事項
 - 四、學生募集ニ關スル事項
 - 五、授業及學科ニ關スル事項
 - 六、學生ノ入學、退學、休學、其ノ他學籍ニ關スル事項

七、學生總代ニ關スル事項

八、試験ニ關スル事項

九、修學旅行及參觀ニ關スル事項

十、教務課ニ屬スル物品ノ整理保管ニ關スル事項

十一、教務課ニ屬スル公文書類ノ立案及其ノ整理保管ニ關スル事項

十二、其ノ他教務ニ關スル一切ノ事項

第十條 學生課ハ左ノ事務ヲ分擔ス

一、學生ノ訓育及賞罰ニ關スル事項

二、學生ノ風儀取締ニ關スル事項

三、學生ノ集會及印刷物ニ關スル事項

四、學生ノ衛生及體格検査ニ關スル事項

五、學生ノ入退舍外泊入院歸省及旅行ニ關スル事項

六、寄宿舍ノ取締及管理ニ關スル事項

七、寄宿舍ノ炊事及出入商人ニ關スル事項

八、非常事變ニ關スル事項

九、學生課ニ屬スル物品ノ整理及保管ニ關スル事項

十、學生課ニ屬スル公文書類ノ立案及其ノ整理保管ニ關スル事項

十一、其ノ他學生取締ニ關スル一切ノ事項

第十一條 圖書課ハ左ノ事務ヲ分擔ス

一、圖書ノ出納及保管ニ關スル事項

二、圖書ノ貸出ニ關スル事項

三、書庫及閱覽室整理ニ關スル事項

四、圖書課ニ屬スル物品ノ整理保管ニ關スル事項

五、圖書課ニ屬スル公文書類ノ立案及其ノ整理保管ニ關スル事項

六、其ノ他圖書ニ關スル一切ノ事項

第十二條 會計課ハ左ノ事項ヲ分擔ス

一、歲入歲出ノ豫算及決算ニ關スル事項

二、物品ノ出納及保管ニ關スル事項

三、金錢ノ出納及保管ニ關スル事項

四、官有財産及資金ノ監理ニ關スル事項

五、校舍、校地ノ營繕ニ關スル事項

六、不用品ノ處分ニ關スル事項

七、會計課ニ屬スル公文書類ノ立案及其ノ物品ノ整理保管ニ關スル事項

八、其ノ他會計ニ關スル一切ノ事項

第十三條 教務課、學生課及圖書課ハ教授中ヨリ特選セル各課長ヲシテ之ヲ管理セシム

第十四條 庶務課及會計課ハ書記中ヨリ特選セル各課長ヲシテ之ヲ管理セシム

第十五條 課員ハ課長ノ指揮ニ從ヒ該課ノ事務ニ從事ス

二、職員服務規程

第一條 新任者ハ著任ノ日ヨリ七日以内ニ履歷書及宿所届ヲ庶務課ニ印鑑届ヲ

庶務課及會計課ニ差出スヘシ

第二條 職員住所ヲ移轉シ姓名印章ヲ變更セルトキハ其ノ都度届出ツヘシ

第三條 職員登校スルトキハ必ス先ツ出勤簿ニ捺印スヘシ但シ教授及教授待遇

ノ講師ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 職員出勤時限ニ遅刻スルカ又ハ執務時間中ニ退出セントスルトキハ其

ノ事由ヲ具シテ學校長ニ届出ツヘシ

第五條 職員病氣其ノ他ノ事故ニ依リ缺勤セントスルトキハ出勤時限前ニ其ノ

旨届出ツヘシ但シ病氣缺勤七日以上ニ亘ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第六條 職員喪ニ當リタルトキハ服忌届ヲ學校長ニ差出スヘシ

第七條 職員病氣其ノ他ノ事故ニ依リ任地ヲ離レントスルトキハ學校長ノ許可

ヲ受クヘシ但シ賜暇中ハ旅行日數及塲所ヲ記シ届出ツヘシ

第八條 職員出張ヲ命モラレタルトキハ出發歸任共ニ學校長ニ届出ツヘシ

復命書ハ歸任後十日以内ニ學校長ニ差出スヘシ但シ場合ニ依リ口頭ヲ以テ

復命書ニ代フルコトヲ得

第九條 職員官廳其ノ他ヨリ本校ヲ經由セスシテ直ニ辭令書ヲ受ケタル時其ノ

事項ノ履歷上ニ關係アルモノハ其ノ都度學校長ニ届出ツヘシ

三、校醫服務規程

第一條 校醫ハ左ノ事務ヲ掌ル

一、學生ノ疾患治療ニ關スル事項

二、學生ノ身體檢査ニ關スル事項

三、其ノ他學校衛生ニ關スル事項

第二條 校醫ハ休業日ヲ除ク外隔日服務スヘシ但シ急患者アルトキハ何時ニテモ出校シテ治療ヲ爲スヘシ

第三條 病氣其ノ他ノ事故アリテ出校シ難キトキハ相當ノ代人ヲ出校セシムルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ其ノ氏名ヲ届出ツヘシ

第四條 衛生上ノ施設ニ關シテハ學生課長ト協議スヘシ

第五條 校醫ハ毎月一回學校ヲ視察シ視察後一週間内ニ視察簿ヲ學生課ニ差出

スヘシ

第六條 校醫ハ學生病類月表及同年表ヲ調製シ月表ハ翌月五日年表ハ翌年度四月十五日迄ニ學生課ニ差出スヘシ

四、宿直規程

第一條 書記及事務雇員ハ交代ヲ以テ毎日一名宛本校ニ宿直勤務スヘシ

宿直勤務ノ順番ハ庶務課長之ヲ定メ學校長ノ認可ヲクヘシ

第二條 宿直時間ハ退出時限ヨリ翌日ノ出勤時限マテトス但シ休業日ニ於テハ出勤時限ヨリ翌日出勤時限マテトス

宿直者ハ事務引繼ノ後ニ非サレハ勤務時限後ト雖モ學校ヲ離ル、コトヲ得

ス

第三條 宿直者ハ左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ除番ス

一、出張中及出張ノ前後兩日

二、三日以上ノ缺勤中

三、賜暇又ハ忌引中

第四條 宿直者ニシテ宿直シ能ハサルトキハ協議ノ上他人ヲ代勤セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ旨宿直日誌ニ記載スヘシ

第五條 新任者ハ出勤日ヨリ起算シ一週間ヲ經テ宿直順番ニ加入セシム

第六條 宿直者ハ宿直日誌ニ左ノ事項ヲ記載シ學校長ノ檢閲ヲ受クヘシ

一、宿直ノ年月日及宿直者ノ氏名

二、宿直ノ巡視及小使ノ氏名

三、接受發送シタル物件

四、其ノ他宿直中處理シタル事項

第七條 宿直中接受シタル電信親展公文書及速達ヲ要スト認ムヘキ職員宛ノ私

文書ハ直チニ宛名ノ者ニ送付シ其ノ他ノ文書ハ翌日宿直日誌ト共ニ次番者

若ハ庶務課員ニ引繼クヘシ

第八條 宿直者ハ校舎各室ノ鎖鑰ヲ監守シ火元戸締ニ注意シ夜中ハ巡視若ハ小

使ヲ率ヒ二回以上校舎ノ内外ヲ巡視スヘシ

第九條 宿直中近火其ノ他非常ノ異變起ルトキハ學校長ニ急報シ且ツ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ

五、物品會計規程細則

第一條 共用備品及消耗品ハ學校長ノ任命セル若干名ノ監守者若ハ取扱主任ヲシテ之ヲ處理セシム

第二條 物品ノ出納ハ學校長ノ檢印アル所定ノ傳票ニ依テ之ヲ行フ

第三條 通常所要ノ物品ハ會計課ニ於テ一ケ年ノ所要高ヲ豫定シ學校長ノ許可ヲ受ケ一回若ハ數回ニ取纏メテ之ヲ購入シ各部ノ請求ニ應シ交附ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 臨時所要ノ物品ハ各部主任ノ請求ニ依リ學校長ノ許可ヲ受ケテ其ノ都度購入ノ手續ヲ爲シ之ヲ當該監守者又ハ取扱主任ニ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 生産保管轉換又ハ寄贈ニ係ル物品ハ會計課ニ於テ其ノ品名數量及見積

價格ヲ付シ物品會計官吏ヲシテ受入命令ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第六條 總テ受入タル物品ハ備品ニアリテハ會計課ニ於テ校名番號ヲ附スヘシ

但シ票札ノ附シ得サルモノハ適當ノ方法ニヨリテ之ヲ整理スヘシ

第七條 本校各部ニ於テ物品ノ支給ヲ要スル時ハ所定ノ請求書ニ品名、數量、需要

事由等ヲ記載シ捺印ノ上之ヲ會計課ニ差出スヘシ

第八條 本校各部ニ於ケル實驗生産品ハ當該取扱主任ニ於テ生産品授受簿ニ其

ノ品名、數量、評定價格及引繼年月日ヲ記載シ之ヲ會計課ニ引繼クヘシ

第九條 監守者又ハ取扱主任物品ノ支給ヲ受ケタルトキハ現品ト照合シテ所定

ノ傳票ニ捺印シ遲滯ナク之ヲ物品會計官吏ニ返付スヘシ共用備品及消耗品

ニアリテハ之ヲ帳簿ニ記載シ且ツ共用備品ニアヘテハ成ルヘク其ノ備付ノ

場所ヲ摘記スヘシ

第十條 監守備品ノ票札汚損若ハ滅失シタルトキハ監守者ハ直チニ之ヲ會計課

ニ通知スヘシ

第十一條 監守備品ニシテ自然ニ毀損シタルトキハ監守者ハ直チニ其ノ修理若

ハ引換ヲ會計課ニ請求スヘシ前項物品ノ修理終リタルトキハ會計課ハ直チニ當該物品ヲ監守者ニ返付スヘシ

第十二條 監守備品滅失シタルトキハ監守者ハ其ノ品名、數量、番號等ヲ取調ヘ始末書ヲ附シ物品會計官吏ヲ經由シテ學校長ニ届出ツヘシ

第十三條 監守備品不用ニ歸シタルトキハ監守者ハ之ヲ會計課ニ返付スヘシ
第十四條 不用物品若ハ毀損物品ニシテ使用ニ堪ヘサルモノアル時ハ會計課ハ處分案ヲ附シテ學校長ノ裁定ヲ請フヘシ

第十五條 監守者交迭シタルトキハ新舊監守者立會ノ上帳簿ト現品トヲ照合シ引繼ヲ爲シタル年月日ヲ帳簿ニ記載シ署名捺印スヘシ前項ノ手續ヲ終リタルトキハ新舊監守者連名ニテ物品會計官吏ヲ經由シテ其ノ旨學校長ニ届出ツヘシ

第十六條 使用中ノ物品ハ物品會計官吏左ノ各項ニ依リテ之ヲ検査スヘシ

一、備品ハ毎年一回支給簿ト監守簿トヲ對照シ更ニ監守簿ト現品トヲ照合スヘシ

二、消耗品ハ各學期毎ニ一回消耗品受拂簿ヲ調査シ現品トヲ照合スヘシ
前二項検査中物品ノ滅失毀損ヲ發見シタルトキ又ハ物品ノ處理ニ付キ意見
アルトキハ物品會計官更ハ其ノ旨學校長ニ具申スヘシ

第十七條 物品檢閲ヲ分チテ定期及臨時ノ二種トス

定期檢閲ハ毎年二月之ヲ行ヒ臨時檢閲ハ必要ト認メタル場合ニ之ヲ行フ

第十八條 物品檢閲委員ハ委員長一名委員若干名トシテ檢閲ノ都度學校長之ヲ

任命ス

第十九條 物品檢閲委員ノ檢閲スヘキ事項左ノ如シ

- 一、物品保管ノ適否
- 二、物品出納ノ適否
- 三、備品使用ノ適否
- 四、消耗品消費ノ適否
- 五、物品缺損ノ有無

第二十條 物品檢閲委員檢閲ヲ終リタルトキハ十日以内ニ檢閲顛末ヲ具シ意見

ヲ附シテ學校長ニ上申スヘシ

第二十一條 物品會計官吏ハ物品ノ出納ヲ明ニスル爲左ノ帳簿ヲ備ヘ之ヲ整理

スヘシ

一、圖書出納簿

本簿ニハ圖書名、冊數、價格、納人等ヲ登記シ出納ヲ明ニスヘシ

二、備品出納簿

本簿ニハ圖書機械標本以外ノ備品ノ品名、數量、價格、納人等ヲ登記シ其ノ出納ヲ明ニスヘシ

三、機械標本出納簿

本簿ニハ機械標本ヲ學科毎ニ口座ヲ設ケ品名、數量、價格、納人等ヲ登記シ其ノ出納ヲ明ニスヘシ

四、生産品出納簿

本簿ニハ實習生産品ノ品名、數量、價格ヲ登記シテ出納ヲ明ニスヘシ

五、消耗品出納簿

本簿ニハ消耗品ノ品名、數量、價格、納人等ヲ登記シテ其ノ出納ヲ明ニスヘシ
六、器具、機械、標本並圖書支給簿

本簿ニハ各部科ノ監守又ハ專用ニ屬スル物品ヲ記入シ以テ支給備品ノ所在ヲ明ニス

第二十二條 監守者又ハ物品取扱主任ニ於テハ各部物品ノ出納監守及取扱ヲ明確ニスル爲左ノ帳簿ヲ備ヘ之ヲ整理スヘシ

一、器具、機械、標本監守簿

本簿ニハ監守物品ノ品名、數量、番號及所在等ヲ明記スヘシ

二、圖書監守簿

本簿ニハ部門毎ニ口座ヲ設ケテ圖書名、冊數、價格等ヲ明記スヘシ

三、消耗品受拂簿

本簿ニハ消耗品(實驗用材料及生產品ヲ含ム)ノ品名、數量、受拂ノ年月日等ヲ

明記スヘシ

四、郵便切手類受拂簿

本簿ハ庶務課ニ之ヲ備ヘ郵便切手ノ受拂ヲ明記スヘシ

六、成績考查規程

第一條 學業ノ成績ハ學年成績及卒業成績ニ區別シテ之ヲ考查ス

第二條 各科目ノ學年成績ハ平素ノ成績及試験成績ニ依リテ之ヲ定ム

平素ノ成績ト試験成績トノ評價ハ擔任教官任意之ヲ定ム

第三條 試験ハ學年試験及臨時試験ノ二トナス

第四條 學年試験ハ該學年中ニ修了シタル課程ノ全部ニ付キ之ヲ行ヒ臨時試験

ハ其ノ一部ニ付キ之ヲ行フ

第五條 學年試験ハ學年末ノ指定日ニ於テ之ヲ行フ但シ學年ノ中途ニ於テ修了

スル科目ハ該學期末ニ之ヲ行フ

前項ノ時期ニ於テ學年試験ヲ行ヒ難キトキハ擔任教官ノ見込ニ依リ該學年

中適當ノ時期ニ於テ之ヲ行フ

臨時試験ハ二學期以上ニ亘レル科目ニ付一回以上臨時之ヲ行フ

第六條 學年試驗ハ修身、數學、測量、機械、設計、製圖、外國語、體操及實習實驗科目ニ限リ擔任教官ノ見込ニヨリ省畧スルコトヲ得

臨時試驗ハ平素ノ成績アル科目ニ限リ擔任教官ノ見込ニ依リ之ヲ省畧スルコトヲ得

第七條 學年成績ハ養蠶科ニ在リテハ蠶兒飼育ヲ二、製絲科ニ在リテハ製絲ヲ二ニ評價シ其ノ他ノ各科目ヲ一ニ評價シテ之ヲ定ム

第八條 卒業成績ハ三學年ノ成績ヲ加ヘ之ヲ三分シタルモノトス

第九條 成績ハ點數ヲ以テ表示シ各科目ノ最高點ヲ一百點トス但シ追試驗ヲ行ヒタル各科目ノ最高點ハ八十點トス

第十條 各科目ノ點數學年成績及卒業成績ハ一點未滿ヲ四捨五入ス

第十一條 左ノ各號ニ該當スルモノヲ以テ各學年ノ課程ヲ修了シタルモノトス

一、學科目及實習科目ノ學年成績平均點各六十點以上ナルトキ

二、科目學年成績各五十點以上ナルトキ

三、學年成績六十點未滿ノ科目總數ノ半數以上ニ上ラサルコト

第十二條 學業成績前條ニ合格セサル者ト雖モ教官會議ヲ經テ其ノ學業成績ヲ
審案シ特ニ該學年ノ課程ヲ修了シタル者ト認ムルコトアルヘシ

七、學生心得

第一條 本校學生ハ教育勅語及戊申詔書ノ趣旨ヲ奉體シ以テ立身報國ノ基礎ヲ
確立スヘシ

第二條 本校學生ハ左記ノ綱領ヲ遵守スヘシ

一、本校ノ規則命令ヲ遵守シ師長ノ指揮訓戒ニ恭順スヘシ

二、信義ヲ重シ廉恥ヲ尙ヒ質素勤勉ヲ旨トシ以テ謹恪自重ノ風ヲ持スヘ
シ

三、職員ニ對シテ敬禮ヲ行フヘキハ勿論相互ノ間ニ於テモ亦禮讓ヲ厚クス
ヘシ

四、攝生ニ注意シ身體ノ強健ヲ圖リ以テ快活ノ精神ト進取ノ氣象トヲ養フ
ヘシ

五、志操ヲ固クシ言行ヲ慎ミ苟クモ本校ノ學生タルノ體面ヲ汚スノ行爲アルヘカラス

第三條 本校學生ハ左記ノ各號ヲ遵守スヘシ

一、揭示ハ之ヲ掲ゲシ日ヨリ一般ニ了知セルモノト認ムルニ依リ能ク注意スヘシ

二、始業時限ニハ遲滯ナク教室ニ入りテ所定ノ席ニ著キ授業終ルトキハ教官退席後靜ニ退出スヘシ

三、授業ノ始ニハ教官教壇ニ昇リ机ニ向ヒシトキ授業ノ終ニハ教官ヨリ授業ノ終ル旨ヲ告ケシトキ一同教官ニ對シ立禮スヘシ

四、授業中參觀人ニ對シ敬禮ノ爲教官教壇ヲ降りタルトキハ一同直ニ立禮スヘシ

五、授業時間中ハ教官ノ許可ナクシテ教室ヲ出入スルコトヲ得ス

六、校舎内ニアリテハ授業中ハ勿論放課後ト雖モ靜肅ヲ旨トシ喧噪ノ行爲アルヘカラス

七、帽子外套其ノ他ノ携帶品ハ必ス所定ノ場所ニ整置シ教室内ニ携帶スヘ

カラス

病氣其ノ他ノ事故ノ爲著用ノ必要アルトキハ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ

八、校内ニアリテハ所定ノ場所以外ニ於テ飲食喫煙スヘカラス

九、團體ヲ組織セント欲セハ必ス生徒監ノ認可ヲ受クヘシ

十、集會ニ於テハ左ノ各項ニ從フヘシ

イ、校舎ノ内外ヲ問ハス集會セントスルトキハ豫メ學生課ニ届出ツヘシ

ロ、集會ノ爲メ校舎校具ヲ借用セントスルトキハ豫メ學生課ノ許可ヲ受

クヘシ

十一、學生課ノ許可ヲ得ルニ非サレハ校舎内ニ掲示張札ヲ爲スコトヲ得ス

十二、本校ノ物品ハ當該物品監守者ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ使用帶出ス

ルコトヲ得ス

十三、本校ノ物品ハ專ラ鄭重ニ之ヲ取扱フヘシ若シ過チテ毀損若ハ紛失シタ

ルトキハ直ニ届出テ指揮ヲ受クヘシ

八、總代規程

第一條 各科各級ニ總代及副總代各一名ヲ置ク

第二條 總代ハ各級學生ヲ代表シ學校ト學生及各級學生間ノ關係ノ圓滑ヲ圖リ

兼テ級風ノ振作ニ勉ムヘシ

副總代ハ總代ヲ補佐シ總代故障アルトキハ之ヲ代理ス

第四條 各級學生ハ各學期ノ始三日以内ニ總代及副總代ノ候補者三名ヲ連記投

票ニヨリテ互選シ遲滯ナク教務課ニ申告スヘシ

候補者ハ出席學生三分ノ一以上ノ得點アルコトヲ要ス

第五條 總代及副總代ハ各級學生ノ互選セル三名ノ候補者中ニ就キ學校長之ヲ

任命ス

第六條 總代及副總代ノ任期ハ一學期間トス

九、學生制服規程

第一條 學生ノ制服ハ左ノ如シ

一、正帽 地質 黑絨

徽章 真鍮製形狀圖ノ如シ

縁 黑綾織

眼底 黑革

願紐 黑革幅三分五厘、釦徑三分三厘形狀服釦ニ同シ

製式 圖ノ如シ

一、畧帽 地質 麥藁

徽章 正帽ノ徽章ニ同シ

帶布 黑無地

製式 普通編方平編

一、正服衣 地質 黑ヘル、黑羅紗又ハ黑一本綾

釦 真鍮製、胸釦七分五個、袖釦五分二個、形狀圖ノ如シ

襟章 真鍮製、左襟ニ養蠶科生ハ桑葉、製絲科生ハ絲柞、絹絲

紡績科生ハ「フライヤー」ノ章ヲ附ス

製式 立襟ハ脊廣形圖ノ如シ

一、袴 地質 正服衣下同シ

製式 圖ノ如シ

一、略服 地質 霜降セル

其ノ他正服ニ同シ

一、外套 地質 黒地又ハ黒味勝ノ質素ノ地質ヲ選ヒ學生ノ分度ニ適當ス

ルモノヲ要ス

釦 一列隠釦

製式 折襟圖ノ如シ

一、靴 黒革製

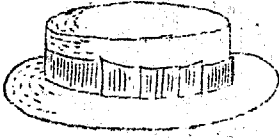
一、脚絆 卷脚絆(カーキ芭)

襟章

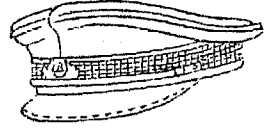


養蠶科

帽 畧



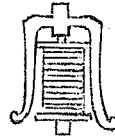
子 帽



衣

前

面



絹絲紡績科

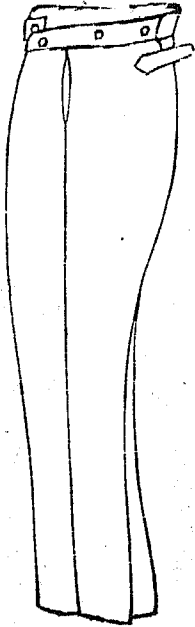


製絲科

章 徽

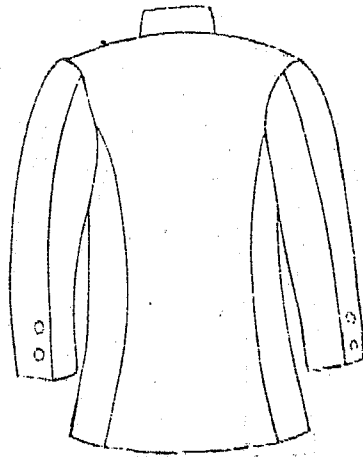


袴

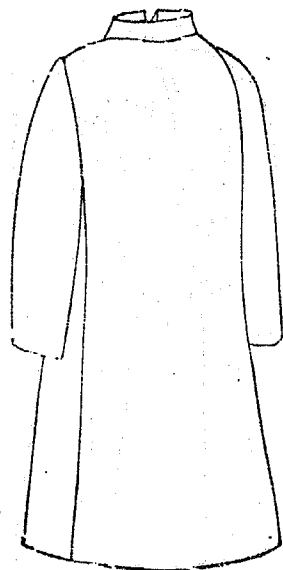


背

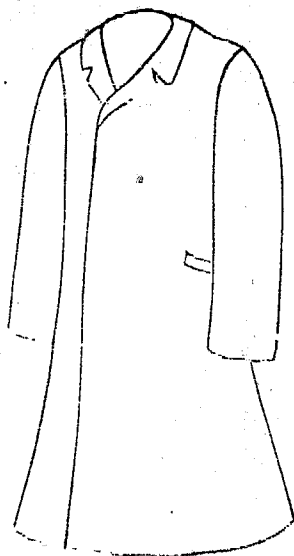
面



外套ノ背面

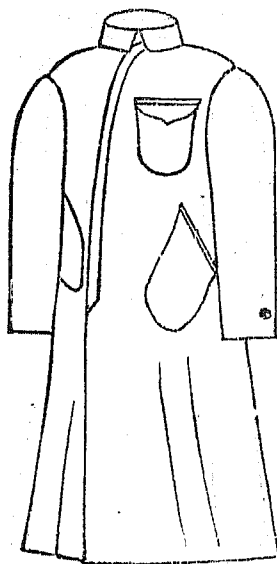


外套ノ前面



製絲科

實習服



第二條 學生ハ左ノ場合ニ於テハ制服ヲ着用スヘシ但シ己ムヲ得サル事由アル

者ハ生徒監ノ許可ヲ得テ和服ヲ着用スルコトヲ服

一、授業ニ出席スルトキ

二、本校學生タルコトヲ表示スルトキ

三、特ニ本校ヨリ指定スルトキ

第三條 學生ハ六月一日ヨリ九月三十日マテハ特ニ指定シタル場合ノ外畧峯ヲ

着用スヘシ但シ第一學年生ハ五月一日ヨリ之ヲ着用スルコトヲ得

第四條 學生ハ前條ノ期間内ニ限リ畧帽ヲ著用スルコトヲ得但シ體操儀式其ノ

他特別ノ指定アルトキハ此ノ限リニアラス

第五條 學生ハ實習ノ場合ニ於テハ左ノ如キ實習服ヲ著用スヘシ

一、衣 養蠶科 地質 霜降小倉

袴 同 地質 衣ニ同シ

一、衣 製絲科 地質 白カツラギ

製式 圖ノ如シ 袴ナシ

一、衣 絹絲紡績科 地質 青味カーキ木綿織

(但シ袖口縮紐付及バンド付ノヲ)

袴 同 地質 衣ニ同シ

第六條 學生外出スルトキハ制服又ハ制帽及袴ヲ著用スヘシ

第七條 新入學生ハ五月一日マテニ制服ヲ調製著用スヘシ

第八條 研究生及選科生ノ服裝ハ別ニ之ヲ定メス但シ學生タルノ禮ヲ失ハサル

コトヲ要ス

選科生ニシテ制服又ハ畧服ヲ着用スルトキハ襟章ヲ省畧スヘシ

十、寄宿舎規程

第一條 本校ハ校風ヲ振肅シ兼ネテ學生ノ心身修養ヲ補クル爲メニ寄宿舎ヲ設ク其ノ綱領左ノ如シ

一、至誠ヲ旨トスヘシ

一、勤勞ヲ尙フヘシ

一、自治ヲ重スヘシ

一、禮節ヲ守ルヘシ

第二條 本校學生ハ總テ寄宿舎ニ收容ス但シ學校長ニ於テ通學ヲ必要ト認メタルモノハ此ノ限ニアラス

第三條 寄宿生ハ生徒監ノ指揮命令及ヒ寄宿舎役員ノ指揮ニ從ヒ本校學生タルノ本分ヲ全フセンコトヲ務ムヘシ

第四條 寄宿生ノ起床、洒掃、食事、自修、外出、消燈ノ時限ハ別ニ之ヲ定ム

第五條 寄宿生臨時ニ外泊又ハ歸省セントスルトキハ其ノ事由ヲ證明スヘキ書類ヲ添ヘタル願書ヲ生徒監ニ差出シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 寄宿生舍内ニ於テ治療シ難キ疾病ニ罹リタルトキハ期間ヲ定メ外泊ヲ命ス

第七條 寄宿生ハ在舍中寄宿料トシテ毎月金壹圓ヲ指定ノ期日ニ會計課ヘ納付スヘシ但シ休暇中及歸省外泊ノ爲全月在舍セサルトキハ該月ノ寄宿料ヲ免除ス

第八條 寄宿生ハ食費及ヒ舍費ヲ指定ノ期日ニ納付スヘシ

第九條 本規程施行ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

十一、寄宿舍細則

第一節 編制及役員

第一條 寄宿舍ハ之ヲ寮ニ分チ各寮ヲ室ニ分ツ

第二條 各室人員ノ配當ハ每學年ノ始ニ於テ生徒監之ヲ定ム

第三條 各室ニ室長及ヒ副室長各壹名ヲ置キ室員ノ互選ニヨリテ之ヲ定メ其ノ任期ヲ壹學期間トス

副室長ハ室長ヲ補佐シ室長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第四條 各寮ニ寮長及ヒ副寮長各壹名ヲ置ク其ノ任期ヲ一學期間トス

寮長及ヒ副寮長ハ各寮學生ヨリ候補者ヲ互選セシメ其ノ中ニ就キ學校長之ヲ命ス

第二節 役員ノ任務

第五條 寮長及ヒ室長ハ協議會ヲ組織シ生徒監ノ指揮命令及ヒ監督ヲ承ケ寄宿

舎規程第壹條ノ趣旨ノ貫徹ヲ圖ルヘシ

副寮長ハ寮長ヲ補佐シ寮長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第六條 協議會ノ議事ハ寮長之ヲ整理ス

第七條 協議會ハ每學期一回之ヲ開ク但シ必要アルトキハ生徒監ノ許可ヲ受ケ臨時開會スルコトヲ得

第八條 協議會ノ議決ハ生徒監ノ認可ヲ得テ之ヲ實施スヘシ

第九條 室長ノ任務要項左ノ如シ

- 一、室内ノ風紀振肅ヲ圖ルコト
 - 一、室内ノ清潔整頓ヲ圖ルコト
 - 一、諸達命令ヲ傳達シ之カ實施ノ責ニ任スルコト
 - 一、室内勤務ヲ指導監督スルコト
 - 一、定例大掃除ノ後生徒監及ヒ校醫ノ檢閲ヲ受クルコト
 - 一、室内ノ諸備品及ヒ臨時外泊學生ノ所有品ヲ保管スルコト
 - 一、室員病氣ノトキ看護ノ手配ヲナスコト
 - 一、破損ノ箇所又ハ物品ノ修理手續ヲナスコト
 - 一、火ノ元及ヒ戸締ニ注意スルコト
 - 一、室員ノ願届書類ニ關スルコト
 - 一、其ノ他室内ニ於ケル臨時ノ諸件ヲ處理スルコト
- 第十條 寮長ノ任務要項左ノ如シ
- 一、寮内全般ノ風儀紀律ノ振肅ヲ圖ルコト

- 一、寮内各部ノ清潔整頓衛生ニ注意スルコト
- 一、諸達命令ヲ各室長ニ傳達シ其ノ實施ヲ取締ルコト
- 一、寮内ノ出來事及ヒ寄宿舎ニ關スル意見ヲ生徒監ニ申告スルコト
- 一、出入商人ヲ取締ルコト
- 一、火ノ元及ヒ戸締ニ注意スルコト
- 一、寮内日誌ヲ擔當シ日々重要事項ヲ記録スルコト
- 一、其ノ他寮内ニ關スル事項

第三節 日課心得

第十一條 寄宿舎ノ日課時限ハ振鈴若ハ喇叭ヲ以テ之ヲ報ス日課時限ハ季節又ハ本校實習ノ都合ニヨリ生徒監之ヲ定ム

第十二條 每朝室内ヲ掃除シ又毎月二回室員全体ニテ大掃除ヲ行ヒ室ノ内外ヲ洒掃整頓スヘシ

第十三條 外出時間ハ授業時間及ヒ特ニ在舎ヲ命シタル場合ノ外朝食後ヨリ午後十時マテトス

已ムヲ得サル事故ニ依リテ歸舍時限ニ後レタル者ハ其ノ事由ヲ證明スヘキ
書類ヲ生徒監ニ差出シ指揮ヲ受クヘシ

第十四條 人員検査ハ臨時之ヲ行フ

第十五條 出入ハ必ス本校正門ヨリナシ其ノ都度各自ノ名札ヲ表裏スヘシ

第十六條 左ノ場合ニハ願書ヲ差出シ許可ヲ待ツヘシ

一、寄宿舎規程第六條ニ依リ歸省若ハ外泊セントスルトキ(學校長宛)

一、規程時間外ニ臨時外出セントスルトキ(生徒監宛)

一、學友ノ病氣看護ノタメ缺課セントスルトキ(學校長宛)

第十七條 左ノ場合ニハ願書ヲ差出スヘシ

一、忌服ヲ受クルトキ(學校長宛)

一、病氣ノタメ缺課(學校長宛)若ハ就褥セントスルトキ(生徒監宛)

一、歸省若ハ外泊先ヨリ歸舍シタルトキ(生徒監宛)

一、金錢物品ノ紛失シタルトキ(時日、員數、生徒監宛)

第十八條 疾病ニ罹リタルトキハ本人又ハ室長ヨリ生徒監ニ申出テ指揮ヲ受ク

ヘシ

第十九條 來訪者ニ面會スルニハ應接所ニ於テスヘシ但シ疾病ノ爲生徒監ヨリ

病室ニ於ケル面會ヲ許可セラレタルトキハ此ノ限ニアラス

第二十條 寄宿舎内ハ土足ノ儘昇降スルコトヲ得ス

第二十一條 火ノ元ニ關シテハ各自相誠シムヘシ

煙草ノ吹殻ハ必ス火鉢ニ棄ツヘシ

第二十二條 寄宿生ニ到達スル郵便物ハ總テ生徒監ヲ經由スルモノトス

第四節 炊 事

第二十三條 炊事ハ自炊ノ方法ニ據ル

第二十四條 炊事ニ委員長及ヒ副委員長各壹名委員若干名ヲ置ク

第二十五條 炊事委員長ハ生徒監ノ指揮監管ヲ承ケ炊事全般ノ取締ニ任ス

副委員長ハ委員長ヲ補佐シ委員長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第二十六條 炊事委員ハ委員長ノ指揮ニ從ヒ炊事ニ關スル事務ヲ處理ス

第二十七條 正副委員長ハ上級生ヨリ候補者ヲ互選セシメ學校長之ヲ命ス

炊事委員ハ次級生輪番ニ之ニ當ル

第二十八條 正副委員長ハ毎年四月及ヒ十月ノ初ニ於テ改任スルモノトス

委員ノ任期ハ一箇月トス

第二十九條 委員ノ任務要項左ノ如シ

- 一、每週獻立豫定表ヲ調製スルコト
- 一、炊事需用品ヲ購入スルコト
- 一、購入物資ノ受拂ヲ整理スルコト
- 一、月末決算報告書ヲ作製スルコト
- 一、日々配膳明細簿ヲ整理スルコト

第三十條 委員長ノ任務要項左ノ如シ

- 一、生徒監ノ指揮ヲ受ケ炊事ヲ總理シ及ヒ所屬員ヲ監督シ生徒監ノ報告及ヒ命令ヲ傳達スルコト
- 一、食物、食器、食堂、炊事場及ヒ浴場、洗面場等内外ノ清潔衛生ニ關シテ必要ナル注意ヲナスコト

一、 獻立豫定表ヲ審査シ生徒監ノ許可ヲ得ルコト

一、 購入物資ヲ取締リ隨時検査ヲナスコト

一、 炊夫並ニ出入商人ノ風紀衛生ヲ取締ルコト

一、 毎月炊事決算報告書ヲ精査シ之ヲ生徒監ニ差出スコト

第三十一條 生徒監ハ炊事ノ事務ヲ補クルタメ炊事係ヲ備入ルコトヲ得

第三十二條 食費ハ總テ日割ニテ計算シ缺食二日以上ニアラサレハ食費ヲ控除

セス但シ缺食セントスル者ハ豫メ委員ニ届出ツヘシ

第三十三條 炊事委員ノ整理保管スヘキ帳簿及書類左ノ如シ

一、 物品購入簿、通帳

一、 購入物品仕譯簿

一、 日々配膳明細簿

一、 飯米日計簿

一、 缺食申込簿

一、 炊事月末決算報告簿

一、其他必要書類

第三十四條 炊事ニ就キ意見アル者ハ委員長ニ申出ツヘシ

第五節 會 計

第三十五條 會計ニ委員長及ヒ副委員長各一名委員若干名ヲ置ク

第三十六條 委員長ハ生徒監ノ指揮監督ヲ承ケ寄宿舎ノ會計ニ關スル全般ノ事

務ヲ統理ス

副委員長ハ委員長ヲ補佐シ委員長事故アルトキハ之ヲ代理ス

委員ハ委員長ノ指揮ヲ受ケ會計事務ヲ處理ス

第三十七條 正副委員長ハ上級學生中ヨリ候補者ヲ互選セシメ學校長之ヲ命ス

正副委員長ノ任期ハ壹學期間トス

委員ハ次級學生毎月十五日ヨリ翌月十五日マテ輪番ニ之ニ當ル

第三十八條 委員長ハ毎月末日マテニ食費舍費ヲ徴收シ翌月初旬ニ於テ支拂ヲ

ナスヘシ但シ特ニ必要ト認ムルトキハ此ノ限ニアラス

第三十九條 會計ニ於テ整理保管スヘキ帳簿及ヒ書類左ノ如シ

一、食費舍費領收簿

一、炊事費舍費支拂簿

一、傭人料支給簿

一、現金出納簿

一、受取書類其ノ他必要ナル書類

十二、通學規程

第一條 通學生ハ宿所選定ノ日ヨリ五日以内ニ宿所届ヲ學生課ニ差出スヘシ宿所變更ノ場合亦同ジ

第二條 通學生ハ本校支給ノ標札ニ姓名ヲ記載シテ宿所ノ門戸ニ掲クヘシ

第三條 通學生ハ本校職員又ハ本校學生一名以上ト同宿スヘシ但シ父兄其ノ他

ノ尊屬ノ宿所ヨリ通學スル者又止ムヲ得サル事情アル者ハ此限リニアラス

第四條 通學生ノ宿所ニシテ不適當ナリト認ムルトキハ日ヲ限リテ之ヲ變更セ

第五條 本校ノ學籍ヲ脱シタルトキ又ハ休學停學ニ依リ一時宿所ヲ離ル、トキハ直ニ標札ヲ學生課ニ返付スヘシ

第六條 通學生ニシテ旅行、外泊又ハ歸省一週間以上ニ亘ルトキハ其ノ事由ヲ具シテ豫メ學生課へ届出ツヘシ

十二、授業料規程

第一條 授業料ハ左ノ期間内ニ之ヲ徴收ス

第一期 四月十八日ヨリ同月二十一日マテ

第二期 九月二十一日ヨリ同月二十四日マテ

第三期 一月二十一日ヨリ同月二十四日マテ

第二條 本校規則第四十條第一號、第二號及第三號ノ一ニ該當スルモノハ事項發生ノ日ヨリ七日以内ニ該期ノ授業料ヲ納付スヘシ

第三條 退學又ハ放校ノ處分ヲ受ケタル者ノ授業料ハ納期ニ拘ラス即時徴收ス

第四條 授業料ノ怠納三日以上ニ及フ者ハ授業ニ出席スルコトヲ得ス但シ特別

ノ事情アル者ハ此ノ限ニアラス

第五條 實習實驗費ヲ徵收スルトキハ特ニ其ノ金額及徵收日ヲ告示ス
實習實驗費ニ關シテハ授業料ノ規程ヲ準用ス

十四、傭人規程

第一條 傭人ハ庶務課監督ノ下ニ各所屬長官並上司ノ指揮ヲ受ケ職務ニ從事ス
ヘシ

第二條 傭人出勤シタルトキハ直ニ出勤簿ニ捺印スヘシ捺印セサル者ハ缺勤者
ト看做ス

第三條 傭人ノ勤務時間ハ午前七時三十分ヨリ午後五時迄トス但シ公務繁劇ノ
場合ハ此限ニ在ラス

第四條 傭人病氣其ノ他已ムヲ得サル事故ニヨリ缺勤セムトスル時ハ其ノ旨時
限前ニ届出ツヘシ病氣缺勤七日以上ニ亘ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘ
シ

第五條 備人ハ通勤並ニ勤務中制服アル者ハ之ヲ着用シ容儀ヲ正シクシ禮節ヲ重ンジ人ニ接スルニ丁寧親切ヲ旨トスヘシ

第六條 備人ハ上田市内ニ居住スル確實ノ身元引受人アルコトヲ要ス

第七條 備人住所ヲ移轉シ姓名印章ヲ變更シタルトキハ其ノ都度届出ツヘシ

第八條 備人ハ最モ嚴密ニ火ノ取扱ニ注意シ苟モ粗漏ノ行爲アルヘカラス

第九條 備人ハ校舎器具機械材料等ヲ鄭重ニ取扱ヒ之ヲ滅失毀損セサル様注意スヘシ

第十條 備人ハ非常若クハ近火ニ際シテハ非番者ト雖モ直チニ出校シ係員ノ指揮ニ從フヘシ

第十一條 備人ハ所屬長官ノ許可アリタル場合ノ外他人ノ委嘱ニ應スルコトヲ得ス

第十二條 備人校内ニ於テ遺失物ヲ拾得シタルトキハ直ニ庶務課員又ハ宿直員ニ之ヲ差出スヘシ

第十三條 備人ニシテ規則命令ヲ遵守セス又ハ職務ニ怠慢ナル者ハ其ノ情狀ニ

依リ譴責減給又ハ解備ニ處ス

第十四條 備人服務細則ハ別ニ之ヲ定ム

十五、非常手配規程

第一條 本校出火若ハ近火等事變ノ際ハ巡視又ハ小使其ノ他之ヲ發見シタルモ

ノヨリ執務時間内ハ學校長及各科ニ其ノ他ハ當直員ニ急報スヘシ

第二條 課員又ハ當直員ニシテ前條ノ報ニ接シタルトキハ 御眞影並ニ勅語ノ

奉安其ノ他應急ニ手配ヲ爲シ且ツ當直員ハ之ヲ學校長及各課員ニ急報スヘ

シ 御眞影並ニ勅語ノ奉安所ハ小縣蠶業學校若ハ神宮奉齋會上田本部トス

第三條 事變ノ性質多人數ヲ要スト認ムルトキハ巡視又ハ火夫ヲシテ警鐘ヲ三

ツ宛連打セシメ又ハ汽笛ヲ連鳴セシム

第四條 前條ノ警報ニ接シタルトキハ職員學生以下諸備人ハ直チニ本校ニ集合

シ豫定ノ任ニ當ルヘシ但シ學生ハ必ス正服ヲ着用スヘシ

第五條 職員學生以下諸備人ノ非常手配ハ毎年四月學生課ニ於テ之ヲ定ム但シ

職員ノ配置ハ學校長ノ認可ヲ受クハシ

第六條 非常手配ヲ警戒掛、防火掛及運搬掛ノ三掛ト爲ス

第七條 警戒掛ハ左ノ事項ヲ掌ル

一、校門ヲ監守シテ無用ノ者ヲ入ラシメサルコト

二、終始校内ヲ巡邏シテ盜難ヲ戒ムルコト

三、駆付人名ヲ書留ルコト

四、夜中ニアリテハ表門其ノ他ノ要所ニ高張提灯ヲ點スルコト

第八條 防火掛ハ左ノ事項ヲ掌ル

一、校内出火ノトキハ備付ノ消火器及唧筒ヲ使用シテ消防ヲ爲スコト

二、近火ノトキハ唧筒ヲ引キ出シテ延燒ノ豫防ヲナスコト

三、其ノ他防火ニ必要ナル事項

第九條 道搬掛ハ左ノ事項ヲ掌ル

一、校舍燒失ノ虞アルトキハ校内ノ圖書機械其ノ他ノ物品ヲ安全ノ場所ニ

運搬スルコト

二、運搬セル物品ニハ監視者ヲ附シテ嚴重ニ取締ルコト

第十條 非常手配掛員ハ各掛長ノ指揮ニ從ヒ各掛長ハ學校長ノ指揮ニ從フヘシ
但シ掛長駈付ケサル間ハ上席者ノ指揮ニ從フヘシ

第十一條 各學期ニ三回學生ヲシテ唧筒及消火器使用ノ練習ヲナサシム但シ第三條ノ警報ヲ爲シテ臨時之ヲ練習セシムルコトアルヘシ

第十二條 防火用具ハ學生課長ヲシテ之ヲ保管セシム

學生課長ハ時々防火用具ヲ點檢シ時機ニ應シテ使用シ得ル様整頓シ置クヘシ

十六、參觀規程

第一條 本校ハ休業日ヲ除クノ外參觀ヲ許可ス但シ學校ノ都合ニ依リ之ヲ謝絶スルコトアルヘシ

第二條 參觀時間ハ午前九時ヨリ午後四時マテトス但シ受付ハ午後三時マテトス

第三條 職員室、教官實驗室、圖書室、機械室、藥品室、試驗室、貯藏庫、原動力室、授業中ノ

普通教室、理化學教室及理化學實驗室ハ參觀ヲ謝絶ス

第四條 雨天ノトキハ廊下ノ連絡ナキ校舍ノ參觀ヲ謝絶ス

第五條 前四條ノ規程ハ特別ノ事情アル者ニ之ヲ適用セス

第六條 參觀人ハ教務課員ノ指揮ニ從フヘシ但シ職員自ラ案内スル場合ハ此ノ

限ニアラス

第七條 學生ハ實習ノ爲説明ヲ課セラレタル場合ノ外參觀人ノ案内ヲ爲スコトヲ得ス但シ學生ト特別ノ關係ヲ有スル參觀人ニ對シテハ授業ヲ缺席セサル限リ特ニ教務課ノ許可ヲ得テ案内ヲ爲スコトヲ得

第六 職 員

(大正十一年六月十日調)

校 長

倫 理

職 員

從四位勳三等
農學士

針 塚 長 太 郎

教授

蠶桑論

(兼) 長野縣技師正五位勳四等農學博士、農學士

三吉米熊

法制及經濟學、簿記、工業經濟學

教務課長

從五位士

阿形輝司

生理化學、纖維學、化學、工業化學、纖維實驗

從五位農學博士、農學士

井上柳梧

製絲學、工場管理論、製絲實習

從五位勳六等

三谷徹

英語、佛蘭西語

圖書課長

從五位文學士

和田仙太郎

乾燥論、機械設計及製圖、熱機關學、應用機械學

從五位工學士

大瀧照太郎

(在外研究中)

正六位農學博士、農學士

川瀨惣次郎

絹絲紡績論、工場建築論、機械設計及製圖、圖案

正六位工學士

石倉新十郎

(在外研究中)

豫備陸軍歩兵伍長正六位農學士

北島鉞雄

農學、植物學、桑樹論、植物實驗、昆蟲學、圃場實習

從六位農學士

遠藤保太郎

農蠶業經營學、製絲業經營學、生絲貿易論、英語

從六位農學士

早川直瀨

微生物學、蠶體病理學、同實驗、獨逸語、顯微鏡使用法

生徒監

從六位農學士

佐藤利一

數學、物理學、氣象學、物理實驗

正七位

原田親雄

毛絲紡績論、綿絲紡績論、熱機圖學、同實習、紡績

正七位

岡德次郎

養蠶學、蠶業汎論、遺傳學、動物學、同實驗

正七位

佐藤春太郎

應用機械學、水力機械學及電氣工學、數學

正七位

新樂顯理

助教

體操

生徒監事務取扱
學生課長事務取扱

桑樹論、測量、圃場實習、蠶兒飼育

早野清三郎

撚絲及機械論、撚絲及機械、色染論、色染實習、分解及意匠、莫大小論

宮島德一郎

養蠶論、蠶體解剖及蠶体生理學、同實驗、蠶兒飼育

松村季美

製絲原料論、乾燥論、屑物整理論、屑物整理、繭檢查、殺蛹乾繭貯繭

陸軍歩兵少尉
正八位

林貞三

撚絲及機械論、織物仕上論、撚絲及機械、分解及意匠

目崎三郎

絹絲紡績論、同實習、麻絲紡績論

森山二郎

生絲整理及生絲檢查論、同實習、製絲論、製絲實習

石坂虎治郎

職員

講師 (囑託日附順)

工場衛生論

醫學士

田中清

蠶種學、蠶種檢查、蠶兒飼育

正七位
農學士

高橋清七
古谷榮藏

精練漂白論、化學、土壤肥料學、工業化學

農學士

須田圭二

化學實驗

文學士

半田孝海

商業通論

陸軍工兵伍長

平澤勝

修身

坂詰鴻一郎

書記

庶務課

庶務課長 勳七等

小澤綱吉

會計課

會計課長 陸軍二等計手 勳七等

太田千五郎

圖書課兼會計課

都筑貞吉

會計課

金井喜右衛門

會計課
教務課兼庶務課

陸軍歩兵軍曹
勳七等功七級
勳軍一等看護長
七等

雇員

製圖
製絲實習
圃場實習
圃場實習
圃場實習
製絲實習
製絲實習
化學實驗
製絲實習部
製絲實習

職員

和	田	主	計
竹	下	文	英
小	林	清	丸
內	藤	榮	吉
松	岡	ア	イ
岩	崎	喜	三郎
樋	口	琢	磨
甲	田	勝	衛
長	峯	や	よ
倉	原		茂
荒	木	紀	僕
伊	藤		照

養蠶實習	寄宿舍	會計課	製絲實習	製絲實習	化學實驗	化學實驗	化學實驗	養蠶實習	養蠶實習	養蠶實習	養蠶實習	養蠶實習	製絲實習	敎務課	經濟
------	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	----

石原石司	小林兼作	飯島寬	久保倭文	森澤桑子	早乙女新一郎	荻野上風	堀忠太郎	金崎眞英	越智岩平	西山市三	中澤喜八	榎原春彦	春原良太郎
------	------	-----	------	------	--------	------	------	------	------	------	------	------	-------

病理實驗

庶務課

養蠶實習

佐藤 秀一

若林 三郎

池田 三五郎

囑託

校醫

醫學士 田中 清

名譽柔道師範

飯塚 國三郎

劍道師範

早野 清三郎

柔道師範

岩崎 喜三郎

体操

教授囑託

陸軍歩兵少佐
從五位勳四等

伊王野 鍊

職員

第七學 生

一、學生氏名

(イロハ順) 中、農、農林

養蠶科 第一學年 二四

井原 歲一	井出 末馬	新穗 利信	大谷内三衛	大政 安一	恩田 勇	若林 茂一	叶世 高義	谷川 海造	高山 邦雄
中 山口	農 熊本	中 宮崎	中 新潟	中 愛媛	中 長野	中 長野	中 愛媛	中 三重	中 群馬
丹 治	内山 吉哉	倉 澤	山口 定次郎	山 岸	丸 山	小 泉	永 曾	北 島	結 城
恒 雄	吉 哉	清	郎	武	十 吉	清 明	豐 吉	正 生	鎮 男
蠶 福	蠶 兵	中 長	中 長	蠶 長	農 愛	中 長	農 滋	中 長	蠶 福
島	庫	野	野	野	媛	野	賀	野	岡

宮下 京三 中 群馬 新村 貞德 蠶 靜岡
 宮島 寬 蠶 長野 平石 兵衛 農 新潟

岩根 謙 中 島根 上村 孝 中 新潟
 稻生 得藏 蠶 愛知 田角 又十郎 農林 群馬

猪瀬 親二 中 栃木 中島 茂 蠶 長野
 池田 正五郎 蠶 長野 九合 喜右衛門 蠶 兵庫

富田 治衛 中 福島 青木 孝男 中 長野
 奥野 憲三 中 大阪 清水 衛敏 蠶 群馬

川島 熊太郎 中 茨城
 養蠶科 第三學年 一七

伊藤 喜代 中 三重 荻原 幸胤 中 山梨
 服部 正一 中 愛知 門田 秀太郎 中 山形

小澤 周一郎 中 長野 米田 俊雄 中 兵庫

竹村 中和 中長野 是枝 良德 中鹿兒島

中村 由枝 中愛知 雨宮 章 中山梨

村瀬 小十郎 蠶岐卓 北澤 周一 中長野

菅野 三郎 中福島 尾藤 省三 中愛知

山本 三六郎 蠶長野 母袋 良平 中長野

古川 俊之 農林岐卓

製絲科 第一學年 三六

岩田 正 中愛知 太田 正治 中新潟

岩田 重左衛門 蠶長野 小口 兼雄 中長野

稻田 實 中島根 萩原 清治 蠶群馬

石田 滿郎 農靜岡 若井 弘 中愛知

橋爪 卓三 農長野 和田 晋 中長野

西山 嘉都治 農林京都 笠原 重龜 蠶長野

大西 龍五郎 中愛媛 神戶 敏夫 中愛知

石井謙三	石原六郎	小出要範	福島鋼治郎	窪田潤	梅澤治三郎	中岡固	常木朝次	土屋勳	多勢龜次	瀧澤昌二	田口榮治	横山英一
中長野	中長崎	中長野	中長野	中長野	中群馬	中岡山	中群馬	中愛知	中山形	中長野	農靜岡	中長野
林十郎	原利直	森西忠一	本橋万三郎	蛭田修三	金野巖保	木藤富士雄	左右田武	猿渡兼光	荒井猛	赤津辰男	近藤義彦	小林英三
中山形	農長野	中三重	中崎玉	中福島	中長野	中愛知	中愛知	中福岡	中長野	中長野	中愛知	中群馬

製絲科 第二學年 一五

大塚清治 農愛媛 合田信一 中香川

高柳春雄 中群馬 小山清 中群馬

高津信一郎 中愛媛 青木友彌 蠶長野

柳澤忠次 蠶長野 坂路善一 中福島

山本奈良三郎 中大阪 塩田健介 中愛知

牧野弘 中神奈川

製絲科 第三學年 二二三

石濱正巳 中茨城 依田寬之介 中靜岡

井原邦雄 山林長野 竹内健二 中長野

井川清 中岐阜 塚田卯平 中新潟

馬場政友 中長野 恒川芳保 中愛知

林直助 中長野 野村又次 中長野

川船卓爾 中長野 栗栖忠士 中廣島

蒲生勇一 中福島 倉橋琢而 中岡山

山岸寅雄	蠶長野	清水重雄	中福嶋
前田益藏	中島取	新庄哲二郎	蠶香川
牧野春雄	中兵庫	廣田雅夫	蠶廣島
甘利俊吾	中長野	住吉忠平	中德島

絹絲紡績科 第一學年 一五

今吉築郎	中大分	宇野修次	農滋賀
橋詰英雄	中長野	松岡雄三	中岐阜
西村武男	中長野	小林浩三	中長野
若菜省	中千葉	小林立夫	中長野
柄澤玉留	中長野	阿久澤清	農林群馬
垣内源一	中兵庫	櫻井隆夫	中長野
高品喜市郎	中兵庫	宮下丈夫	中長野
根岸只吉	中神奈川		

絹絲紡績科 第二學年 九

學生

林 太郎 中 長野 後藤 政之 中 茨城

香 三 蠶 兵 庫 小松 忠一 郎 中 長野

香 山 清 和 中 長野 安 倍 恒 雄 中 福島

田 子 英 人 中 長野 宮 本 靜 雄 中 長野

碓 永 茂 蠶 長 野 宮 本 靜 雄 中 長野

絹絲紡績科 第三學年 一五

伊 藤 友 次 郎 中 岐阜 植 村 秀 男 中 大阪

伊 藤 富 次 郎 中 愛 知 野 口 新 太 郎 中 長野

石 井 久 雄 中 岐 阜 小 林 榮 夫 中 群馬

服 部 虎 雄 農 愛 知 佐 藤 一 中 長野

友 松 董 太 郎 中 愛 知 宮 澤 茂 雄 中 群馬

河 西 尙 一 中 長 野 清 水 保 中 愛媛

高 橋 利 光 中 兵 庫 巢 山 喜 吉 中 熊本

村 島 徹 中 茨 城

養蠶科 選科生 一三

長谷川 正雄 長野 松浦 清 栃木

庭屋 雄次郎 群馬 深田 銀作 愛知

金澤 丈也 青森 小中 潔 兵庫

向井 玖彌 群馬 佐藤 義助 長野

内田 憲治 埼玉 菊池 貞一 福岡

宇田 虎一郎 群馬 三浦 與六 長崎

製絲科 選科生 八

大畑 得三 群馬 權 寧九 朝鮮

小山田 道男 山梨 宮澤 篤 長野

若林 新一郎 滋賀 平塚 兵次 山形

高島 正己 長野 鈴木 寶鈴 新潟

絹絲紡績科 選科生 一

青木 喬 靜岡

二、學生地方別

府	縣	養蠶科			製絲科			絹絲紡績科			計
		一年	二年	三年計	一年	二年	三年計	一年	二年	三年計	
樺	太										
北	道										
青	森										
秋	田										
巖	手										
宮	城										
山	形										
福	島										
新	瀨										
栢	木										
茨	城										
千	葉										
神	川										
東	京										
	奈										
二 一 四 一 五 八 三											

鳥兵京大和奈富石福滋三岐愛靜山長群埼

歌

取庫都阪山良山川井賀重阜知岡梨野馬玉

學
生

一				一	一	八二
一	一				一	三二
一				一	二	三五
三	一			二	二	四一
	一			一	七	二三四一
	一				一	四二
一	一			一	一	一八
一	一	一	一	一	一	九三五六一
二				一		七一
一						六
一	一			二	三	三二
四	一			三	三	一六三
一	八	一	三	三	六	一六四二
				一	五	一七三一

一三一

計	島根	山	島	川口	島	知	媛	分	岡	賀	崎	本	崎	熊	宮	鹿	沖
二四				一				三									
一三																	
一七																一	
五																	
四																	
三六																	
六一																	
一五																	
二																	
二																	
二																	
七																	
三																	
三																	
一五																	
九																	
一																	
五																	
三																	
九																	
一																	
六																	
六																	

上田監絲專門學校一覽

二、學生出身學校別

福島	山形	宮城	巖手	秋田	青森	北海道	地方
全 縣立 會津中學校	全 縣立 米澤中學校	全 縣立 鶴岡中學校	全 縣立 莊內中學校	全 縣立 相馬中學校	全 縣立 福島中學校	全 縣立 福島中學校	出身學校
—	—	—	—	—	—	—	養蠶科
—	—	—	—	—	—	—	製絲科
—	—	—	—	—	—	—	紡績科
—	—	—	—	—	—	—	計

學生

東京	神奈川	千葉	茨城	栃木	新潟	
全 海城中學校	私立 赤阪中學校	全 大多喜中學校	全 水戸中學校	縣立 真岡中學校	全 高田農學校	全 蠶業學校
—			—	—	— 二	— —
					— 一	— 二
			—			
—	—	—	二	—	— 二	— — 二

長野	群馬	埼玉
全縣立野澤中學校 全松本中學校 全長野中學校 全上田中學校 全飯田中學校 全小縣蠶業學校 全上伊那農業學校 全諏訪中學校 全大町中學校 全木曾山林學校 全飯山中學校	全勢多農林學校 全蠶絲學校 全藤岡中學校 全前橋中學校 縣立高崎中學校	縣立川越中學校
七 一 六 二 一	一 一 一	一
一 一 一 一 二 六 一 五 七 一	二 四	一
二 一 三 〇 一	一 一	一
一 一 一 三 三 一 六 二 二 二 九 一	二 三 一 四 一	一

大阪	和歌山	奈良	富山	石川	福井	滋賀	三重	
私立 桃山中學校						縣立 長濱農學校	全 藤岡中學校	全 農林學校
全 茨木中學校						縣立 上野中學校	全 富田中學校	全 第三中學校
府立 今宮中學校						縣立 第三中學校	全 藤岡中學校	全 第三中學校

德島	香川	山口	廣島	岡山	島根	鳥取	兵庫	京都
縣立脇町中學校			私立廣陵中學校	私立興讓館中學校		縣立鳥取中學校 全米子中學校	縣立姫路中學校 全豐岡中學校 全洲本中學校 全蠶業學校 私立甲陽中學校	府立農林學校
							— 二 —	
—			—	—		— —	— 二	—
							三 —	
—			—	—		— —	— 六 二 — —	—

宮崎	熊本	長崎	佐賀	福岡	大分	愛媛	高知
縣立都城中學校	全阿蘇農業學校 縣立鹿本中學校	私立鎮西學院		縣立八女中學校 私立豐國中學校	縣立中津中學校	縣立宇和島中學校 全大洲中學校 全松山農業學株 全宇和農業學校 私立北豫中學校	
—	—			—		— —	
		—		—		— — —	
	—				—		—
—	— —	—		— —	—	— — — —	

鹿兒島	縣立川内中學校	一				一
沖繩						
朝鮮	府立平壤中學校			一		一
計		五四	七三	三九	一六六	

四、學生修業學校別

修業學校	養蠶科	製絲科	絹絲紡績科	計	百分率
中學校	三五	五六	三〇	一二一	七三
農業學校	一九	一七	九	四五	二七
計	五四	七三	三九	一六六	一〇〇

五、學生年齡調

(大正十一年六月一日調)

科	學	年	最	高	最	低	平	均
---	---	---	---	---	---	---	---	---

絲科	績	絹紡	製絲科			蠶蠶科		
			第一學年	第二學年	第三學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一學年	第二學年	第三學年	二四、一	二七、一	三〇、三	二五、六	二四、一	二七、八
二〇、二	一八、二	一九、五	一七、三	一八、二	一七、二	一七、二	一八、三	二〇、四
二一、七	二〇、八	二二、四	一九、一〇	二〇、一	一八、四	二〇、四	二〇、七	二二、〇

備考 平均ハ最高最低ノ平均ニアラズ各學年次全生徒ノ平均トス

六、入學志願者及入學者修業學校別

修業學校	入學試驗		養蠶科		製絲科		絹紡績科		計	百分率	百人ニ對スル入學者
	入學者	志願者	入學者	志願者	入學者	志願者	入學者	志願者			
第一回	一三三	三六	一八	四〇	三一	七八	七九	八四	二四		

農業學校						中學校										
第六回	第五回	第四回	第三回	第二回	第一回	第十一回	第十回	第九回	第八回	第七回	第六回	第五回	第四回	第三回	第二回	
一四	一五	一六	二八	二九	五五	一五	一三	八八	七一	〇六	四五	七三	四六	五四	七二	
三	五	四	七	三	一	一三	一五	二四	二六	三三	二九	二三	二五	二七	三二	
七	一	一	二〇	二五	二六	三四	三〇	八三	七八	九三	二一	四四	三七	五〇	四五	
一	三	五	七	三	三	二三	一七	一五	二〇	二三	三一	二三	二二	二六	二五	
						一六	一九	九八	二〇							
						八	六	一三八	八							
二一	二六	二八	四八	五四	八一	六五	六二	二六九	一七〇	一九九	二六六	一一七	八三	一〇四	一一七	
四	八	九	一四	一六	一四	四四	二八	四三	五二	四九	六四	五二	四五	五一	五二	
一五	二三	二一	二九	一九	二〇	五五	五七	七七	七四	七七	八三	八四	七四	七八	七〇	
七	一五	一五	二一	一八	一六	六七	六四	八四	七九	八九	九四	九三	八三	八五	七八	
一九	三一	三二	二九	一一	一七	三七	二六	一六	三一	二五	二四	四四	五四	四九	四〇	

學生

師範學校			工業學校												
第三回	第二回	第一回	第十回	第九回	第七回	第六回	第五回	第四回	第二回	第十回	第九回	第八回	第七回		
—	—									三〇	二七	四七	二八	二四	三九
—										八	九	三	八	三	
	—	二			—	二	—	二	—	二	九	一七	一七	三	三
								—	二	八	五	四	五	五	一
			—	二						—	一	—	四	八	
										六	二	—	二		
—	—	二	—	—	—	—	—	—	—	五	三	四	七	八	五
—								—	—	二	一	—	三	五	四
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四	五	〇	二	二	三
—								—	—	三	三	一	二	二	三
—								二		三	三	六	一	二	九
〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	五	〇	一	九	五	〇	二	六
									〇	九	五	〇	二	六	九
															八

一四三

計	專門學校 入學者檢 定試驗合 格者			商業學校																
	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	第八回	第九回	第十回										
第一回	一八八	一五一	一〇二	七〇	六一	八七	八四													
第二回	四七二	三五一	三五二	二九六	二八五	三二	三六													
第三回	二二三	一二七	六五	六三	五二	五二	三七													
第四回	四三	三六	三三	三二	二六	二四	三二													
第五回																				
第六回																				
第七回																				
第八回																				
第九回																				
第十回																				
計	二二	二六	四〇	四六	四八	四〇	二一													

三、卒業生本籍就職地方別

地方	本籍			就職地		
	養蠶科	製絲科	絹績科	養蠶科	製絲科	絹績科
北海道	—	—	—	—	—	—
青森	—	—	—	—	—	—
秋田	—	—	—	—	—	—
巖手	—	—	—	—	—	—
宮城	—	—	—	—	—	—
山形	—	—	—	—	—	—
福島	—	—	—	—	—	—
新潟	—	—	—	—	—	—
栃木	—	—	—	—	—	—
茨城	—	—	—	—	—	—
千葉	—	—	—	—	—	—
神奈川	—	—	—	—	—	—
東京都	—	—	—	—	—	—
埼玉	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—

島鳥兵京大和奈富石福滋三岐愛靜山長群
歌

根取庫都阪山良山川井賀重阜知岡梨野馬

卒
業
者

四三一三二四四一二一四四七五三六五四七

三四三六四一二二一二五三八四七五七

二 一 四

七七四九二八五五四二七九〇三三七六一三三四

五二三五三三三四二 五七 一六二 六一七

五四六一三二二二三二二四 一三六二 四九二

一 二 一 二

五七七 一四六五五四三二七 一三五四四〇九

一六二

臺支朝沖鹿宮熊長佐福大愛高德香山廣岡
兒

灣那鮮繩島崎本崎賀岡分媛知島川口島山

上田蠶絲專門學校一覽

一 二 四 三 三 四 五 六 四 一 七 六 三

四 三 二 二 二 六 二 一 三 二 三 二 三

五 二 七 五 五 六 一 八 五 三 三 〇 八 六

一 四 三 二 六 五 六 二 四 一 一 五 四

五 二 一 一 三 一 二 五 一 一 二 二 五

一六二

五 六 四 三 九 一 七 一 一 二 五 一 三 七 九

米						
計						
國	二五八	二三五	七	五〇〇	二五〇	二二一五
						七
						四七八五

四、卒業者職業別

種別	養蠶科	製絲科	絹絲紡績科	計	百分率
文部省					
農商務省	二	四		六	一一
蠶業試驗場	七			七	一一
生絲検査所		四		四	一一
朝鮮總督府	一四	一		一五	二一
縣廳	五六	一		六七	一四
郡役所	一三			一三	二四
學務校	一〇三	一五		一一八	二四
蠶絲業組合	二			二	一一
蠶種會社	七	一		八	一一
製絲工場	三	八一		八四	一七

卒業者

備考 死亡	計	二五〇	二二一	七	二二	四
	其他	七	一		八	一
	兵	五	七		一	二
	自營	三〇	四〇	一	七一	一四
	商會		三六		三六	七
	紡績會社	一	二〇	六	二七	四

附錄

一、上田蠶絲專門學校校友會規則

第一條 本會ハ會員相互ノ交誼ヲ厚クシ智德ヲ磨キ身體ヲ鍊リ以テ本校ノ校風

ヲ發揮スルヲ目的トス

第二條 本會ヲ上田蠶絲專門學校校友會ト稱ス

第三條 本會ノ會員ハ左ノ四種トス

一、通常會員 本校學生

二、特別會員 本校卒業生本校修業生

三、贊助會員 本校職員及本校ニ緣故アル者

四、名譽會員 會長ノ推薦ニ係ル者

第四條 本會ノ目的ヲ達センカ爲メ左ノ七部ヲ置ク

一、總務部

二、文藝部

三、劍道部

四、柔道部

五、庭球部

六、弓道部

七、山岳部

八、辯論部

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一、會長 一名

二、副會長 一名

三、部長 八名

四、評議員 若干名

五、委員 若干名

第六條 役員ノ職務ハ左ノ如シ

一、會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス

二、副會長ハ會長ヲ補佐シ會長ノ故障アルトキハ之ヲ代理ス

三、部長ハ會長ノ指揮ニ從ヒ各部ノ事務ヲ統轄ス

四、評議員ハ役員會議ニ列席シ意見ヲ述ベ議決ニ參與ス

五、委員ハ部長ノ指揮ニ從ヒ各部ノ分擔事務ニ從事ス

第七條 會長ニハ學校長ヲ推戴シ副會長、部長及評議員ハ賛助員中ニ就キ會長ノ

指名トシ委員ハ特別會員及學生ノ互選トス

第八條 役員ノ任期ハ一箇年トシ毎年二月之ヲ選任ス

第九條 本會全體ニ關スル事項ハ役員會議ノ議決ニ依ル

役員會議ニ於テハ左ノ事項ヲ議決ス

一、規則及會則ノ制定及改廢

二、豫算及決算ニ關スル事項

三、運動會ニ關スル事項

四、其他重要ナル事項

第十條 役員會議ハ毎年二月會長之ヲ召集ス但シ必要ノ場合ニハ臨時召集スル

コトアルヘシ

第十一條 役員會議ハ總役員ノ三分ノ二以上出席スルニ非サレバ議事ヲ開キ議

決ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 役員會議ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決ス

ル所ニ依ル

第十三條 本會ノ經費ハ會費及寄附金ヲ以テ之ニ充ツ

一、通常會員ハ入會ノ際入會金トシテ金壹圓ヲ總務部ニ納付スヘシ

二、通常會員ハ會費トシテ授業料納期第一期及第二期ニ金貳圓第三期ニ金

壹圓ヲ總務部ニ納付スヘシ

三、特別會員ハ會費トシテ毎年四月金壹圓ヲ總務部ニ納付スヘシ

四、名譽會員贊助會員ハ別ニ會費ヲ徵收セス

第十四條 通常會員ハ基金トシテ卒業又ハ修業ノ際金貳圓ヲ總務部ニ納付スヘシ

第十五條 本會ノ會計年度ハ三月一日ヨリ翌年二月末日迄トス

第十六條 本會ノ收支決算ハ毎年三月之ヲ報告ス

第十七條 本規則ハ役員會議ノ議決ニヨリ之ヲ改正スルコトヲ得

第十八條 前項ノ議決ハ出席役員四分ノ三以上ノ多數ヲ得ヘキモノトス

委員ノ選舉及各部ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

二、校友會役員

會長 針塚長太郎

副會長 三吉米熊

總務部長 阿形輝司

委員 平澤勝林 貞三 伊藤喜代 住吉忠平

村島徹 富田治衛 青木友彌 濱香三

山岸武 岩田正 宮下丈夫

文藝部長 松村季美

委員 森山二郎 樋口琢磨 山本三六郎 倉橋琢而

小林榮夫 尾藤省三 廣田雅夫 古松董太郎

奥野憲三 高柳春雄 香山清和 小泉清明

荒井猛 西村武男

劍道部長 和田仙太郎

委員 竹村中和 野村又次 野口新太郎 岩根謙

若井弘 小松忠一郎 谷川海造 近藤義彦

若菜省

柔道部長 佐藤春太郎

委員

門田秀太郎 塚田卯平太 清水保 青木孝男

小山清 宮本靜夫 井手末馬 梅澤治三郎

松岡雄三

庭球部長 石倉新十郎

委員

母袋良平 井川清 後藤政之 中島茂

柳澤忠次 林太郎 宮島寬 荻原晴治

櫻井隆夫

弓道部長 新樂顯理

委員

荻原幸胤 新庄哲次郎 宮澤茂雄 池田正五郎

山本奈良三郎 濱香三 山口定次郎 橫山英一

小林立夫

山岳部長 井上柳梧

委員

服部正一 川船卓爾 安部恒雄 猪瀬親二

石井謙三 田子英人 平石兵衛 笠原重龜

宇野修二

辯論部長 早川直瀨

委員 雨宮章 井原邦雄 石井久雄 稻生得藏

原利直 碓氷茂 倉澤清 小口兼雄

橋詰英雄

評議員 三谷徹 大瀧照太郎 遠藤保太郎

佐藤利一 原田親雄 岡德治郎

古谷榮藏

上田蠶絲專門學校一覽終

附 錄

大正十一年六月廿五日印刷

大正十一年六月三十日發行

(非賣品)

編輯兼
發行者

上田蠶絲專門學校

電話四〇六番

長野縣上田市四千八百番地

印刷者 中澤勝治郎

電話一二二番

長野縣上田市五千七百九十五番地

印刷所 中澤活版所

電話一二六番